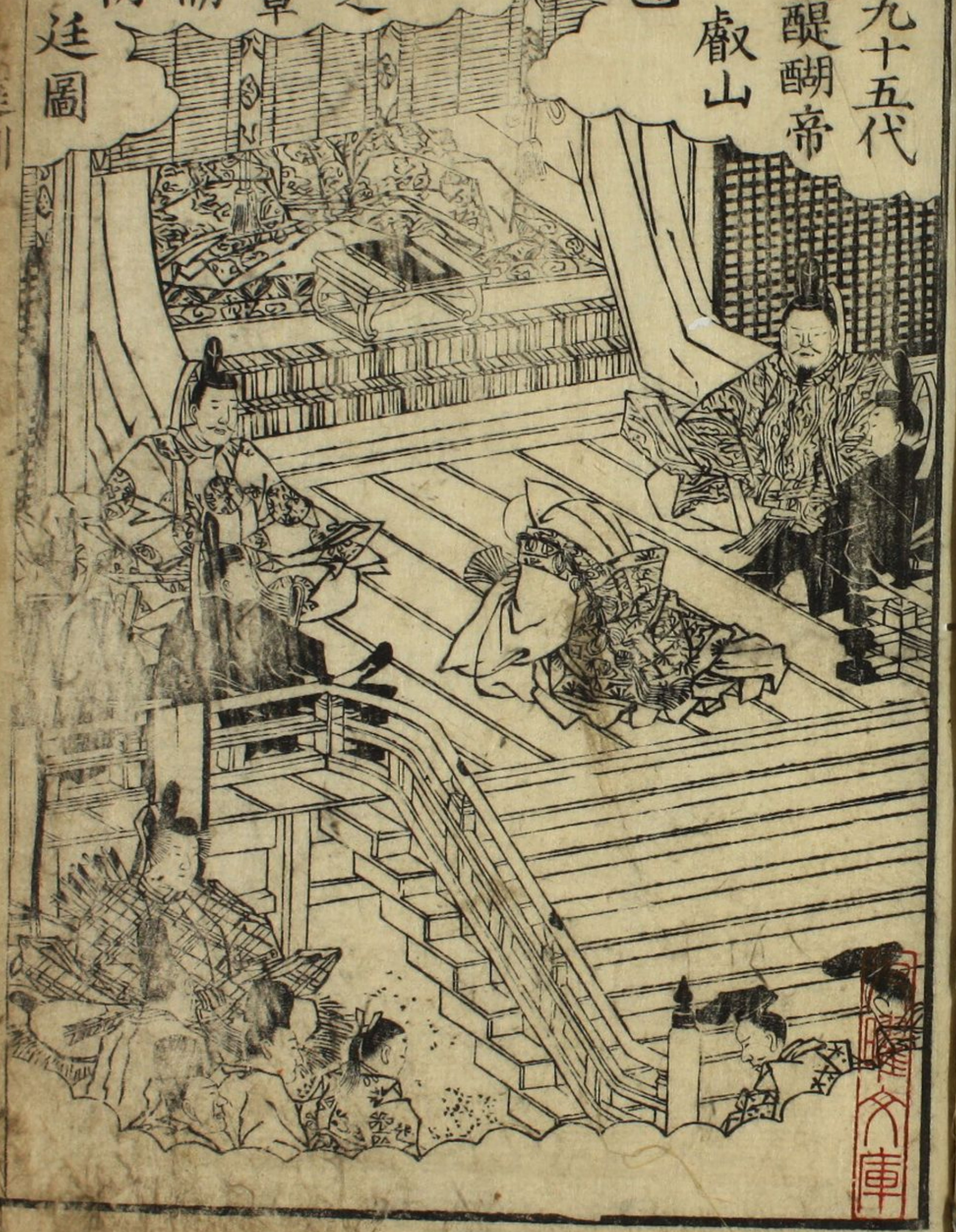




人皇九十五代
 因後醍醐帝
 勅詔叡山
 學匠
 法印
 玄慧
 和俗之
 著文章
 一編而
 奉朝
 廷圖



月の異名

正月	睦月	端月	初節	大族
二月	如月	仲春	般春	夾鍾
三月	禊月	弥生	竹秋	姑洗
四月	卯月	余月	朱明	仲呂
五月	皋月	梅月	南訛	芒種
六月	水無月	季夏	亢陽	林鍾
七月	文月	蘭月	流火	夷則
八月	葉月	桂月	西影	南呂
九月	長月	暮秋	季商	無射
十月	神無月	陽月	大章	應鍾
十一月	霜月	暢月	周正	黃鍾
十二月	極月	臘月	窮律	大呂

庭訓往來題號由縁

夫佛法王は成備ひ仁義禮智信と宗の福小冊人たるを武
 乃二事より起るべき事の原頭とせざるべしと云ふは仁義礼智信
 との武智信と二義礼とを定むるは二國傳燈に不謂又法王と
 建立滅派生善其巨益なり武はこれ王は在るは強敵は復たは尚
 を護念一羣集とれと云は中又道と嗜むるの月成乃照去元辰且乃
 魏文四域の聖徳より先特々文母より其属と刑ふ暇り文盛不
 すれば至法亦留りて之と稱くするは國家の少くを後より願
 武士を天地法湯相生はこれ元人受病と勸めて學をなさざるは
 捨き得る武力の中は天台山中精志學道あり名成古惠法中といへ
 眞相の産あり小島武人外久く比慶字學約り或は法中といへ
 年來學問の事特あり事と感成あり庭中にて一書其書札と綴るを
 信不速と書小書と一十二月に進返成ありて裏は法成の書と書と
 既す至止此と云は後ありて則庭訓往來乃早成あり之誠まは法
 森羅万象の果列して日月の形ありて之未世乃法人は法成ありて
 無境として道と云は惠師乃本懐永世止まらざるは

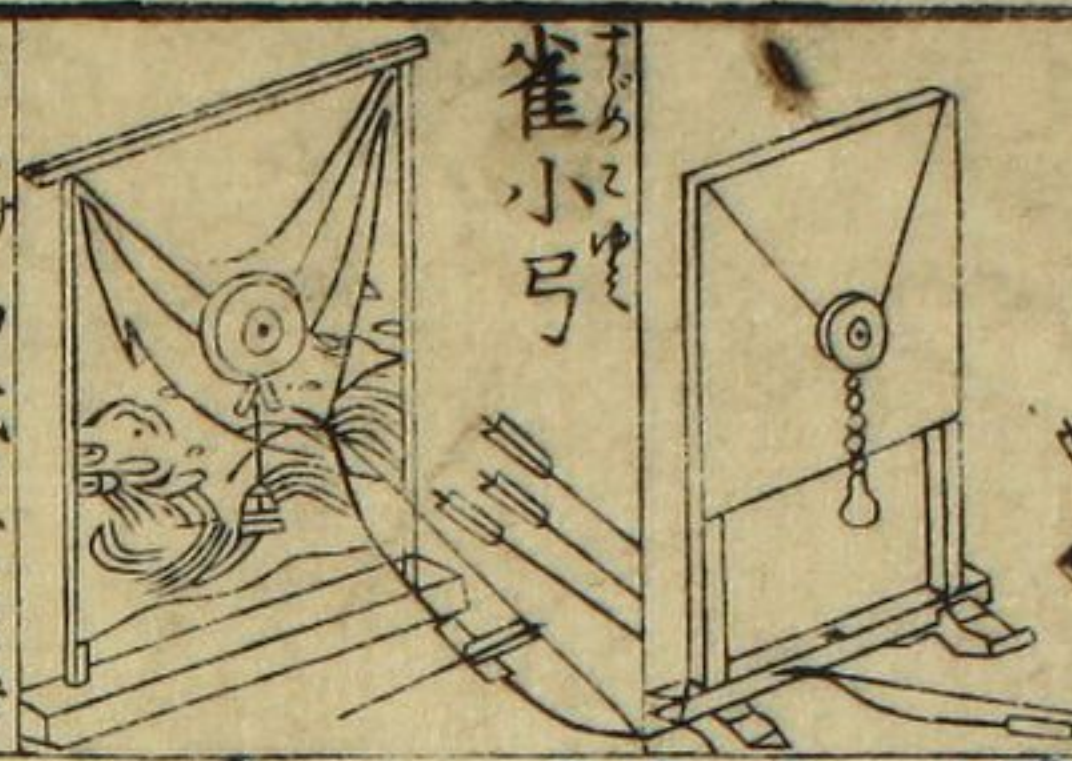
庭訓往來題號由縁

此書著述の由来前文如謂
 之為なり抄庭訓は二字を明
 意ありて他文とて了るる文系
 とのえりて意あり訓へんは法
 讀み次第小書と云ふこと之が
 といふなり抄庭訓は二字を明
 寶庫は納め秘録といふなり
 其のち百一代乃帝後小松院法
 法石と云ふは庶民は法とい
 て訓へるは一書と云は法結の庶民
 性来五十九代後醍醐天皇の御代
 せりたり王代年同備庭訓といふ事
 抄庭訓といふ事
 從昔より魯國乃大聖孔子に



揚弓

雀小弓



笠懸



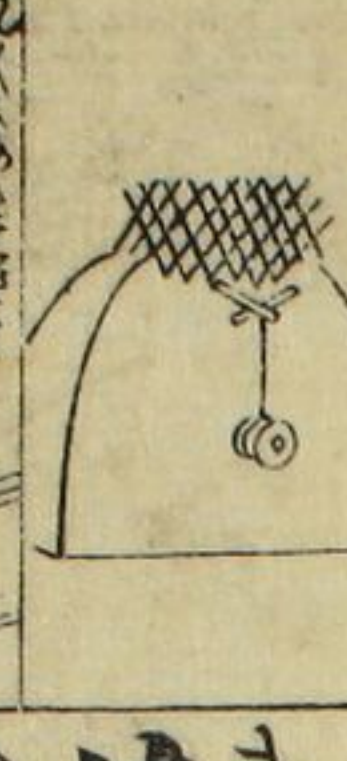
小串



草鹿



圓物



三九半



ひうけにすまうそむきこわんしとちうのしやうんこまこようきう

日新願宵中を伴早将又揚弓

雀小弓勝負を懸小串之云

草麻園抱抱之九半更八鶴

出前近日打續経美の約者母

能挽遠老おる玉徳了言長給

志者中是公事後多老那春云

之次委不能南亮忠々謹言

正月台 在清射藤架賀

謹上石見守殿

改年古慶訪任涉之志を懐先

目出考覺任自比志を主事あこ

涉をれ披見とまらま揚抱喜喜



吉野山 諸家 狂
 のおもむきごとく
 之を越えぬ紙上作候
 此作不具傳云

二月廿二日

彈正忠之善

謹上 大進物殿

欲見乞今東山紀行
 心まきまきと
 心まきまきと
 心まきまきと



花鳥風月
 車花鳥風月
 深空樹林
 今由る有
 車花鳥風月

詩歌

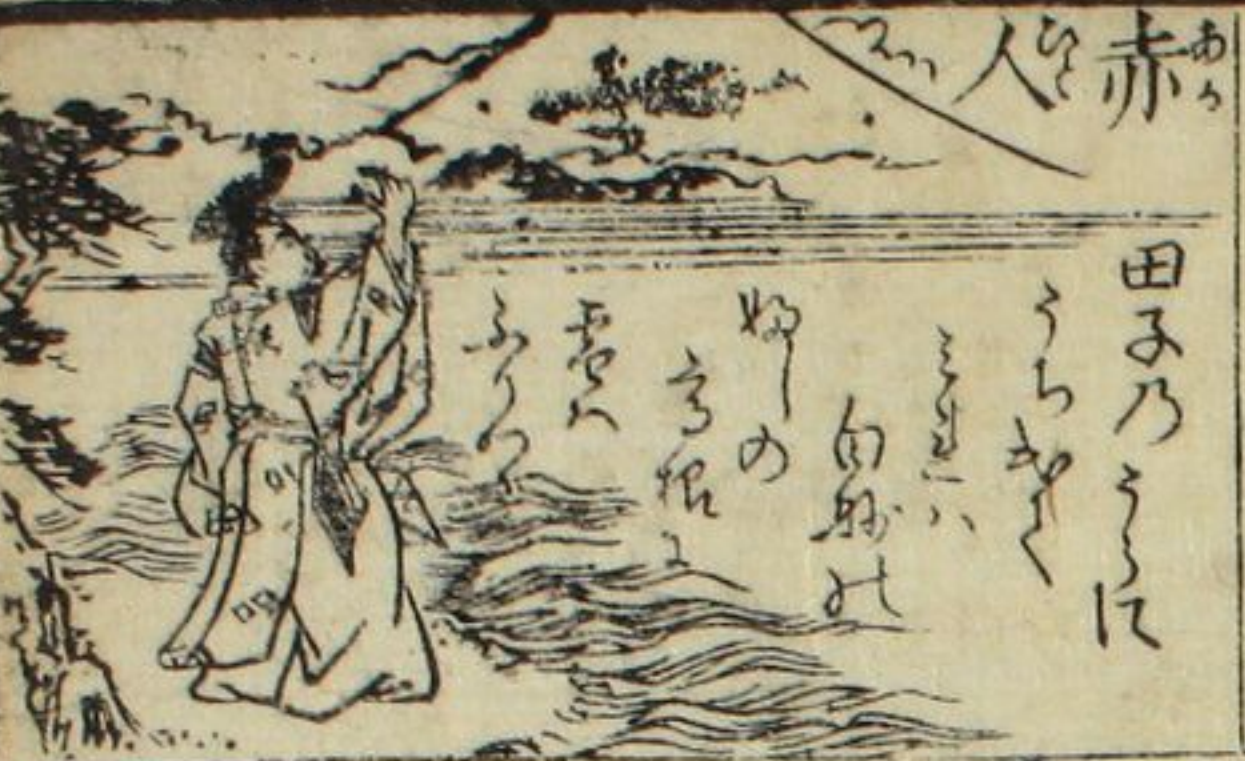
管弦



磨人



赤人



反言

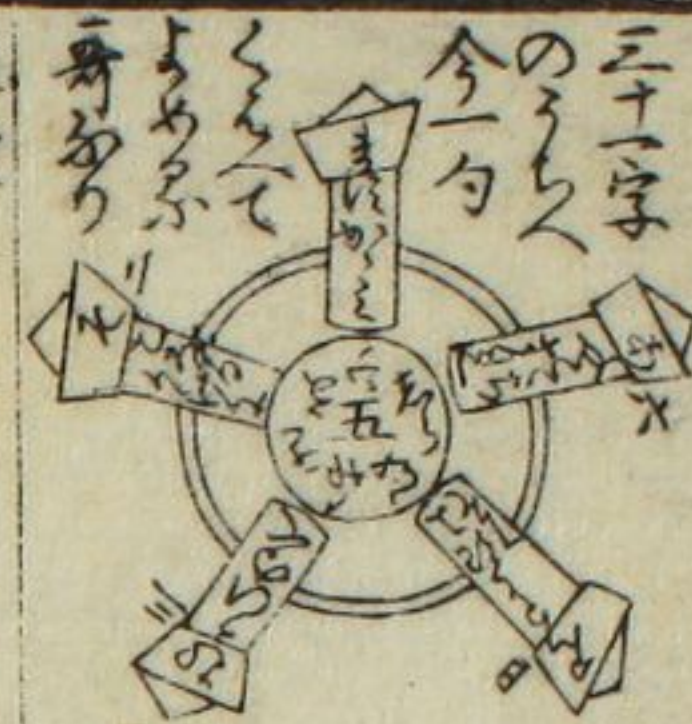
道徳丸赤人古風来宛長龍
 可旋頭混々折句當冠之風情
 梅白傍歌亦飛花散并約能句
 乃及管弦家心家々意流更更序
 表類類信信韻聲伴伴流流松
 惟之同格葉少煙指也也加較

不之始起宿は目之取傳執筆夜
 旬賸物下下女學まま味之回商望
 室可及及曲強柳一有則完之由
 不違无舉心之也
 不違无舉心之也

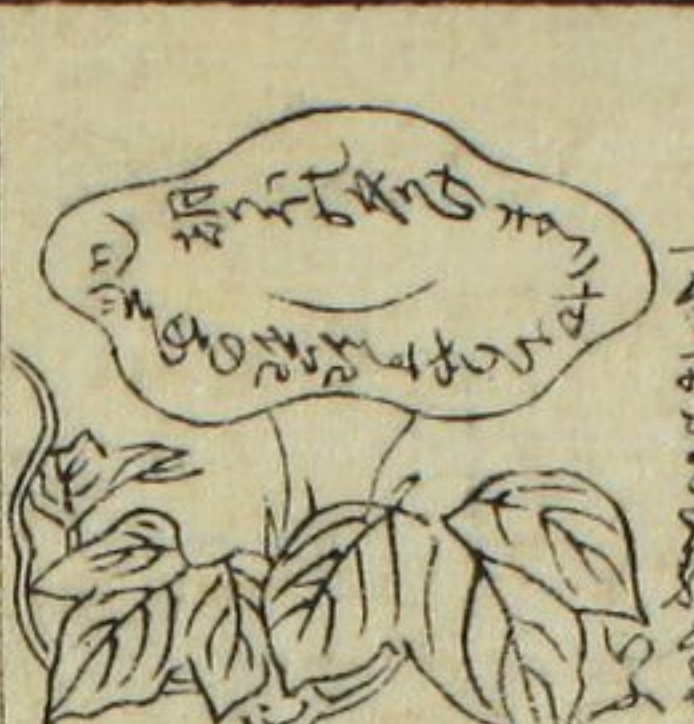
二月廿二日

監物必源

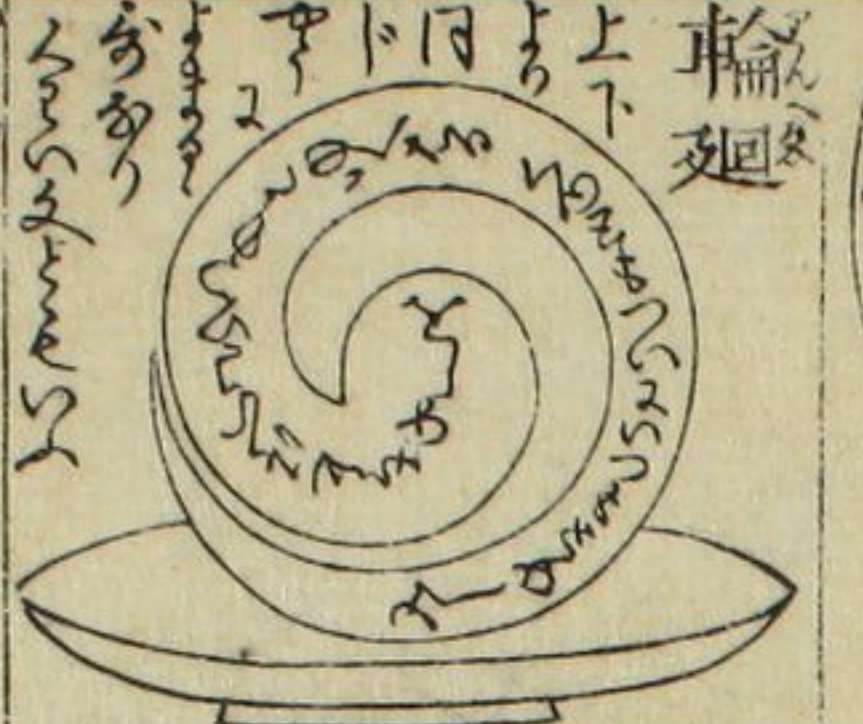
施頭



三十字
今一
身あり



五十字
あつち
すてり
あつち



皮言

後上 弾心忠教 沙也事

祝言 終々 老難 皇業 行 孫 意

慶賀 迎 日 言 皇 家 御 運 子 聖 昌

息 化 平 守 有 際 此 果 言 皇 業 公

作 法 領 入 幼 世 相 遠 皇 業 先 孫 好

皇 威 皇 統 之 四 皇 億 尔 後 汗

酒 新 平 守 有 際 此 果 言 皇 業 公

沙 法 系 皇 業 皇 威 皇 統 皇 業 公

相 遠 皇 業 皇 威 皇 統 皇 業 公

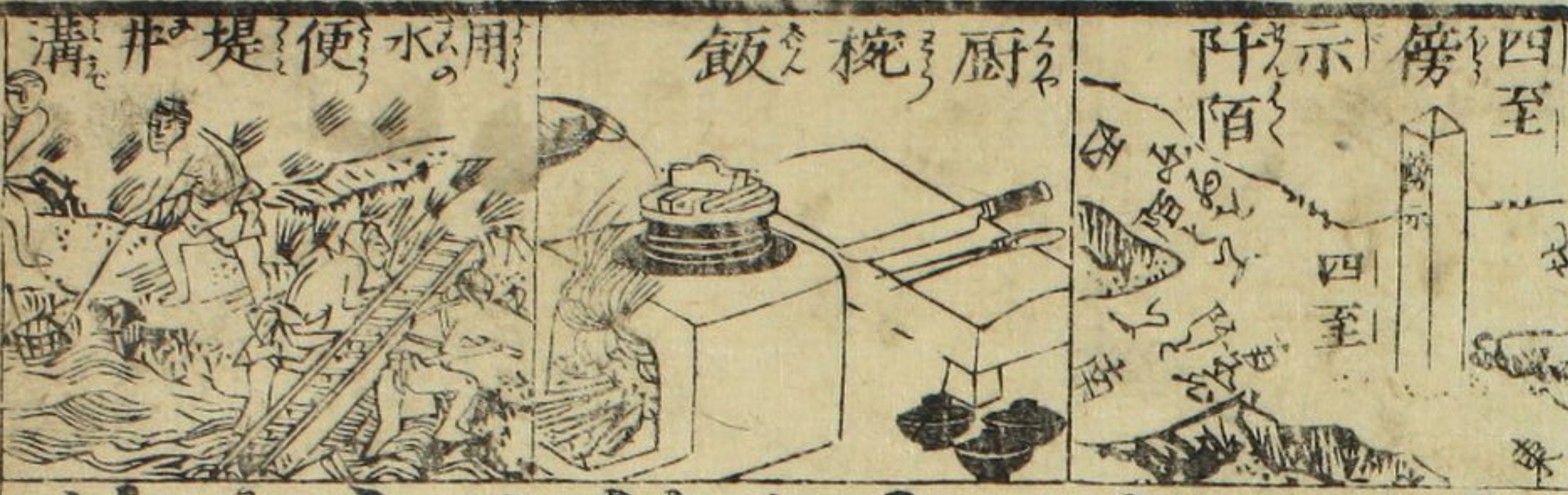
後 上 皇 業 皇 威 皇 統 皇 業 公

被 皇 業 皇 威 皇 統 皇 業 公

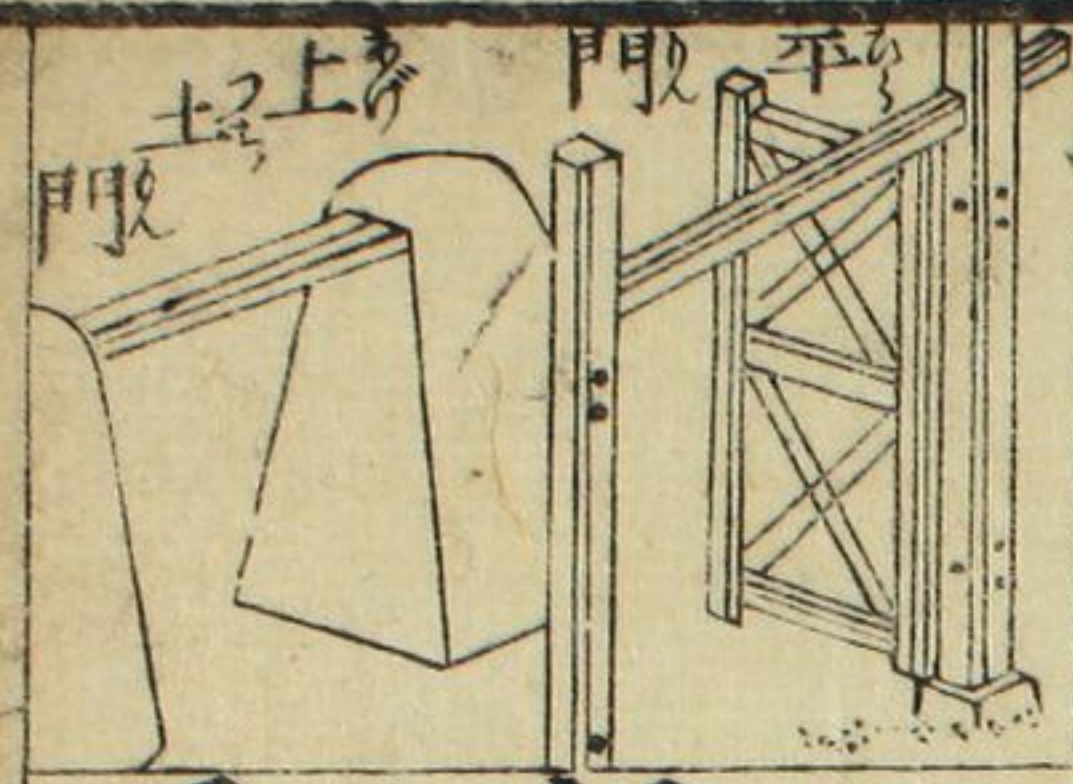
科 皇 業 皇 威 皇 統 皇 業 公



ちひてきししてすいんのごとくすくろくろくふゆとくのちとれい
魚相水 早年 須計 連白 地裁
 ちよむとあぶぐごういすすのちばまのねまんのうみんと
取勢者 言身 地裁 居養 令
 くいはつこしとあつてくすまのたうらうらうととこん
用致 於 任用 為 使 為 長 民
役 固 堤 井 溝 裡 出 花 勃 者
除 迫 採 証 田 志 主 少 種子 農
料 從 鋤 發 犁 木 農 具 令 耕 作 粒

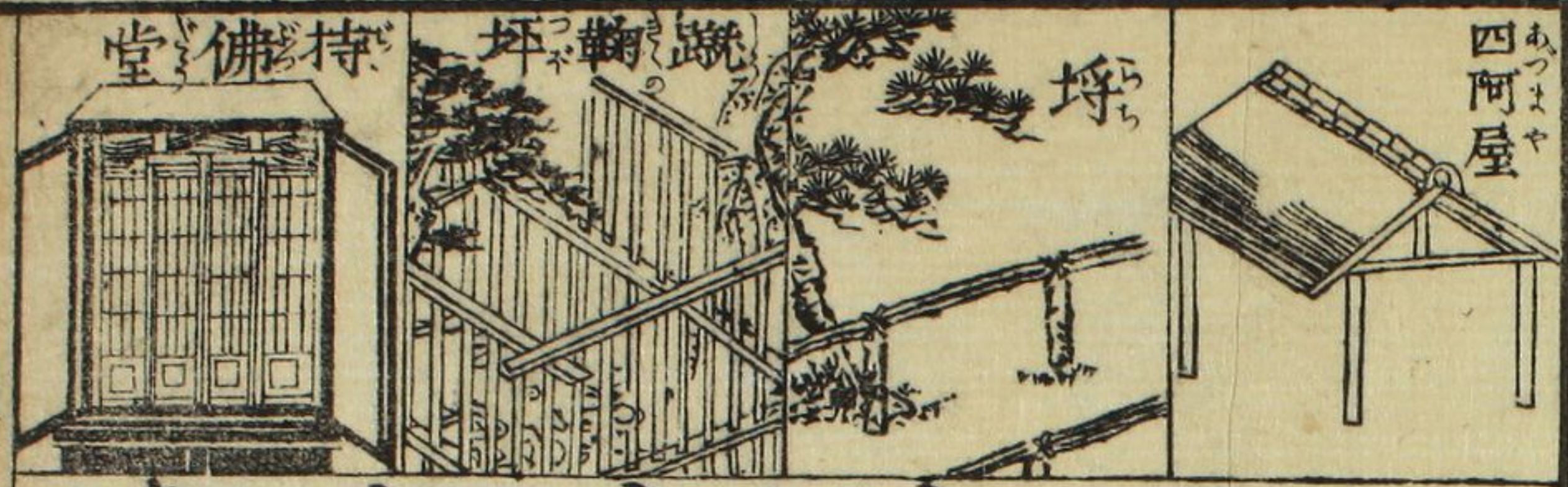
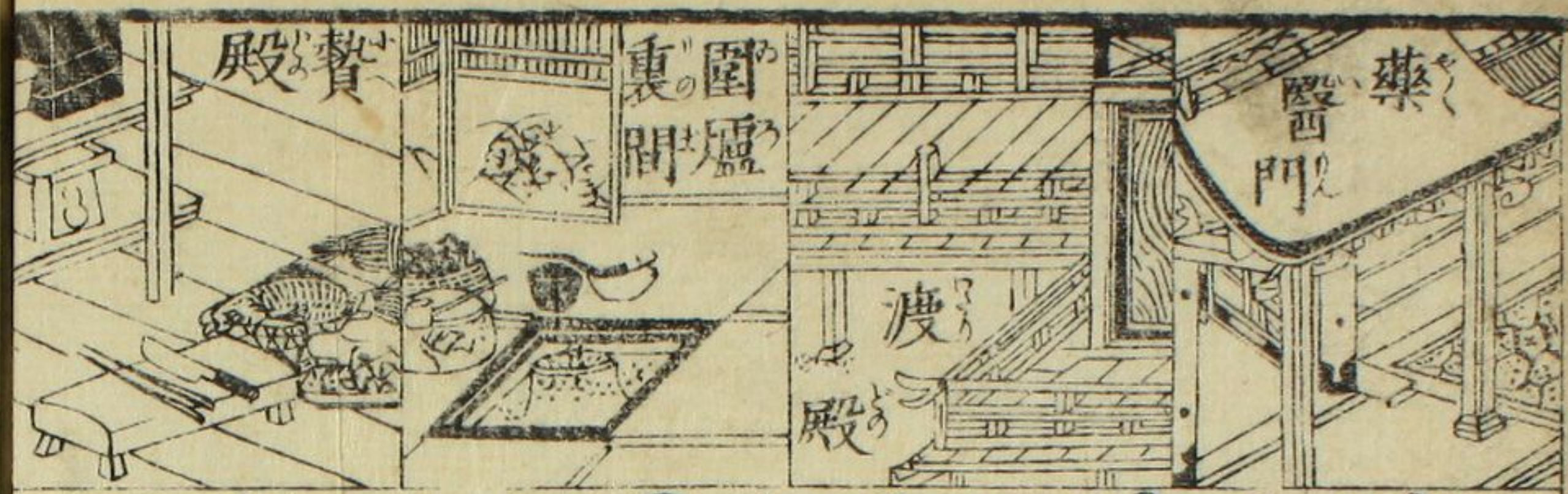


角豆 粟 麦 黍 稗 木 泡 烟 高 乾
既 得 次 白 粟 黍 麦 黍 稗 木 泡 烟 高 乾
熱 稗 粟 麦 黍 稗 木 泡 烟 高 乾
生 作 車 子 之 名 別 他 稗 黍 麦 黍 稗 木 泡 烟 高 乾



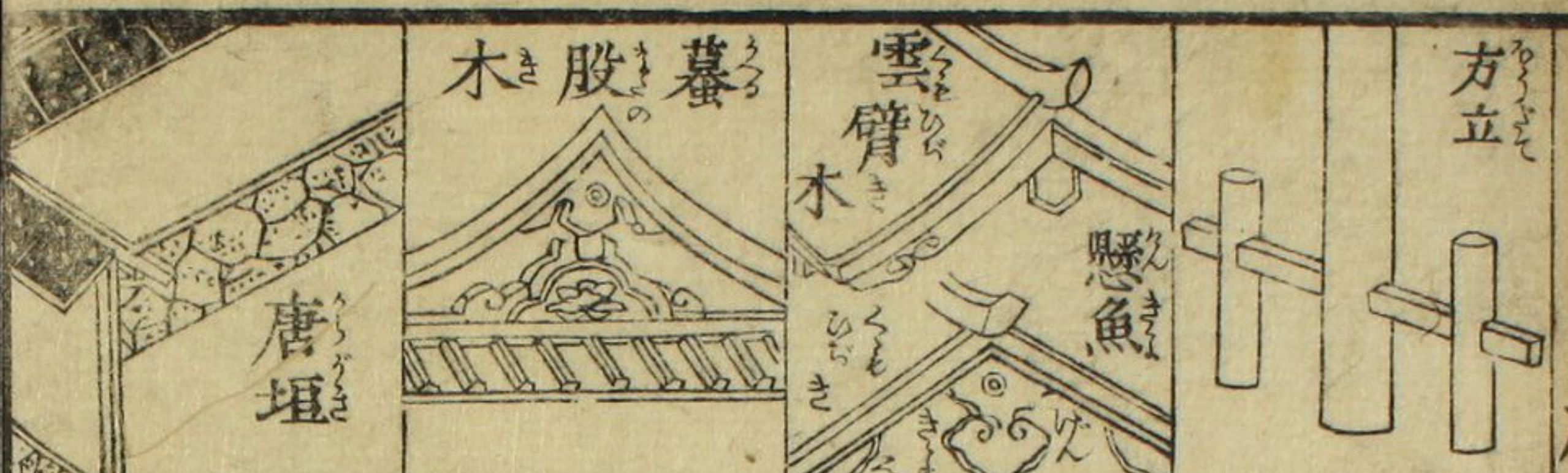
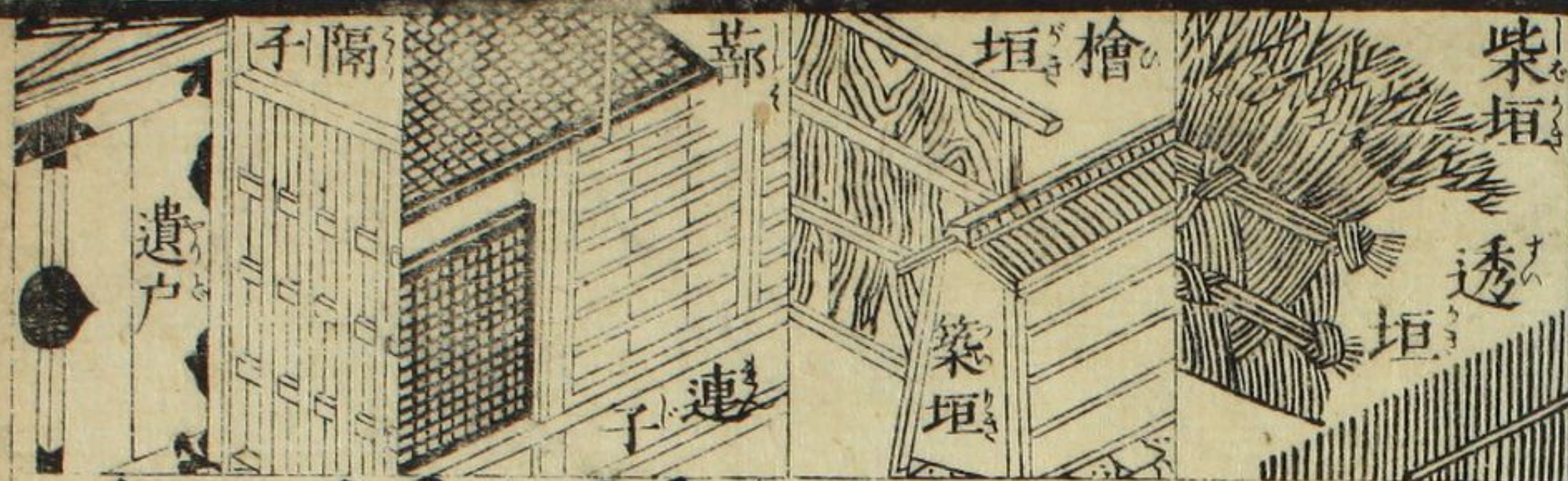
四方様大堀之内可用之築地
 棟門唐の志有斜破後於平門
 上之の築地賢明の石を計り後殿を
 厚菅葺板庇廊中し渡殿を裏
 板葺侍法廐會本園極裏之間
 等又取之之所は形勝は其新賢

西收期
 馬場人信持同築的定本様
 蹴鞠坪在棟本館泉水立石
 築造乃任眺望法方角等禁
 忌指相討之相續客殿下之様



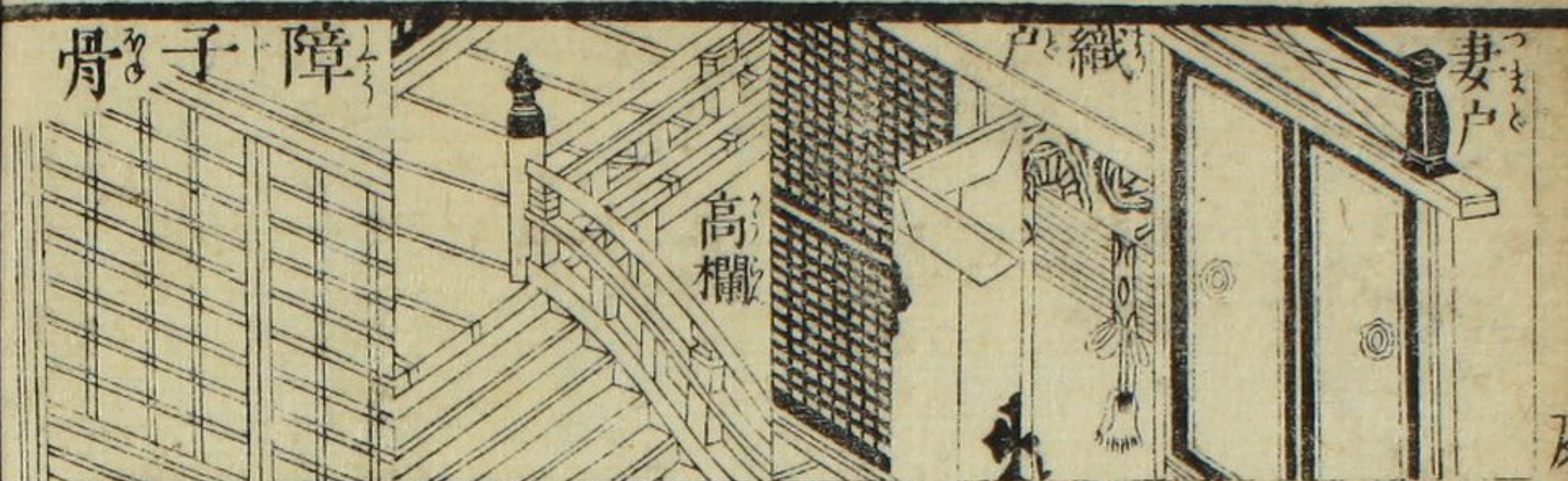
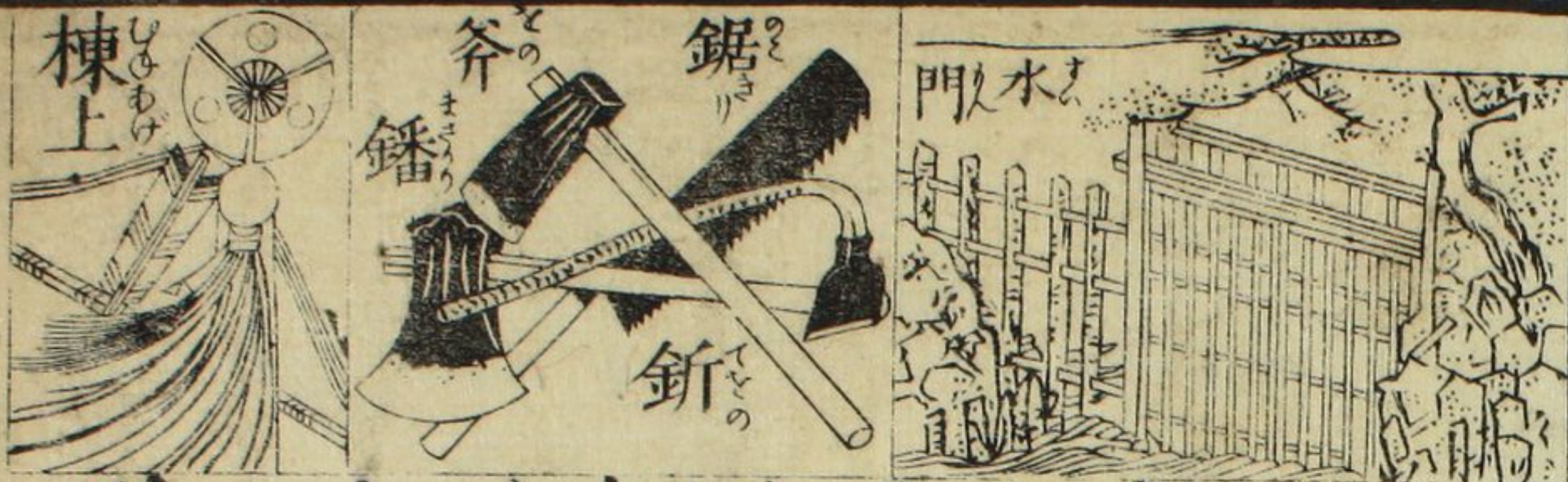
是月御佛堂被堂庵室休不
 先假遺傳又構系發及序中
 間屋也後花樹本室修竹前栽茶
 軍同不御權也設位下糸々世色
 傍社勅仕云政忠堂云百不位也
 也得之

三月七日 壬午
 御政所殿
 神傳自傳具志取以予御也
 存等因御作法下文御教書
 教書回部役号云矣候在
 及御云也の花台書令撰の旨



新立襷居板と精泥棟と古瓦
 保法湯頭と雲下杉木葉梅
 桃李枇杷木楊梅葉梨子推
 漆松榴棗樹漆抽棋と子楊雲列
 檜金掛柳下木木及と身櫻早
 從沙見死下級作下徳車造り人

戸生金の細字と板首と壁と
 縁障子骨棟補紙押博勢木松
 常水口道地真足と津藩と
 賞字山中と芥錯結釘舟造他釘金
 物と角と雲炭鐵石と板治金造
 仰木之葉修理職人之改早下巧匠



今不替業内以回不替業方何
 条中業内神領身内底業民
 電切夕煙厚自程一東西業
 繁行及甚致業行嚴重
 知人甚者程托分物礼物折出
 美民不歸也必存實者之扶運

子細作事領田法在公名之管
 第存野公之除業之東原長貴
 依之好身奉言令自可之教
 進上 三月十日 在清門忠橋
 進上 主業及元殿清通報



庭訓

好も倭深き寂靜悟基也
 正承也言也凡先之曰也
 身仍也寂有身多津森特也
 河得也寂幸定也也也也
 通也字小此合樣見世棚布
 類執也菓子有貴實也使也

巧匠也道本道也金銀銅鐵
 播深也後也也也也也也
 其也松物也松也松也松也
 唐紙也唐紙也唐紙也唐紙也
 水也楫取也漢也海也朱也白也

庭訓

四

黎民 厚夕 煙朝 黎民 厚夕 煙朝



業之西東門之姓百 業之西東門之姓百



反言

擲了烏帽子織成 沽酒醉生
 矢細之涼茶志作 膏之磁漆攪
 師持人精末由樂 師子者恍惚師
 珠善法海縣法子 傾城白物子遊安
 軟教世年其擊 師法陽師給師佛
 師指後花師武 義之釋之族或禪

津由僧聖乃淨 古碩字顯教卷
 宗學生修驗約者 勅驗者僧智老
 聖人紀典仙經 儒志的明經道學
 古詩飲宗道管 經上子了智經聲
 在名師下念 善念名僧檢師可善
 沙法清書也 果果子年去不飛

定判

五



るのうらぶらん ト かんーのたりーやまうさいの
 名経書林字漢字を連老定家
 利者毎舌博覧敷起給仲余
 尤大切招指有盾族可也
 氣後每事初海自之傳之
 卯月百 前宋女正
 中勢無殿

高人旅者宿宿字を養賞津
 世めあめんころころえこのころころの
 色何事也た宮後筆源代傳
 月迫上る言事年願る不不道



遊玩凡京所人濱高鑲龜靴
いそろ およそきやうのてうりんをまのあさんどくまうのあつひの
ふのころえさむろひやうこのせんどうよとふはろの
 事有交易定宝庫船以流川尻
と移りおかつ さりゆくのむしやくしをふらふのころま
 刀松大津坂なる信鳥昭河軍
うーのあつひのわげさむろくのうせんううくのしひまるあつひ
 信泊借上落積錢浦向免因
ふとあつひのこんとまうせあつひうんそくしひんあつひ
 刻前進上之任舟載運送之決大
と移りのあやあつひのねとさくでうのそあつひのいこのまの
 全儀大津練舞具除保物標態

緝之流希大之須鳥丸鳥帽之室
くろりぢぬの おいさやのさむらうのあつひ
まじのころてーまじらさかのうけさ
 町伯樂之鳥延漢儀之室不長
かまころやうそくおつひのたさかとのすくこーへの
 早鳥野利又大原新小野炭山采
まやまのあつひあつひのまむつりあつひのころのそり
 侯城教扇仁私守肩作婦小野針
くまのあつひたいこのころま
 鞍馬本等漢解胡鳥頭布束之室
けいまのころやこのころま
 西心之志以外加美信州城精好美



のよきうらんとりてちやうあまのぬのひちちほし
 濃く糸を長丈に添布を寄添
 上野綿上総糸式糸純依後修
 切付任縁着積積は活存同程給播
 慶福原備前方坐事織甲此薬長
 門半奥別金傳中鉄敵後垣一強
 支那国防能を以朝定程在伏杖束

あまのくまのしごまかちきん
 安藝博能宅金河内錫備後酒
 和泉酢之様推掌内粟字賀尻
 布松浦彌能美能奥凍純上穀
 或久國唐物高藤杉杓如雲他産
 来易初貴貴利潤起る雲條糸
 守江村来出入老賤と云矢系初録



倉凡海領を饒軍に人富富を屋
 他家風守を上下に己様也志
 有沙下向を元後流儀を連
 夫の者也之儀云

四月十日 中勢無清来草
 追上 采女正殿

良之隔面福棟若也何日取取
 勢北西漢を更之術候初云
 押集来下向を本名高家一人之
 次使手秀中清を守折高
 不取中扶持を難法と云及心受也



助成を以てその功なりとて
 のりなきことその功なりとて
 亦在る事と雖も其功なりとて
 降を以てその功なりとて
 兼て其功なりとて
 廣く其功なりとて
 鈍く其功なりとて

杯懸盤了今更西春油蠟燭
 種下進位其功なりとて
 孝子家父其功なりとて
 肯思今其功なりとて
 感物下其功なりとて
 紫葉其功なりとて



奥漆 紫穀 筑 松浦 若狭 推 和泉酢 備後酒 能登金 和泉酢 備後酒 河内 鍋内
 土佐 隱岐鮑 越後塩引 近江 鮒 鯉 淀 奥州 備中鉄備前 金

五月日 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江

此のありしよしん たいふ 一やうぐん ちやえ
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江

本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江

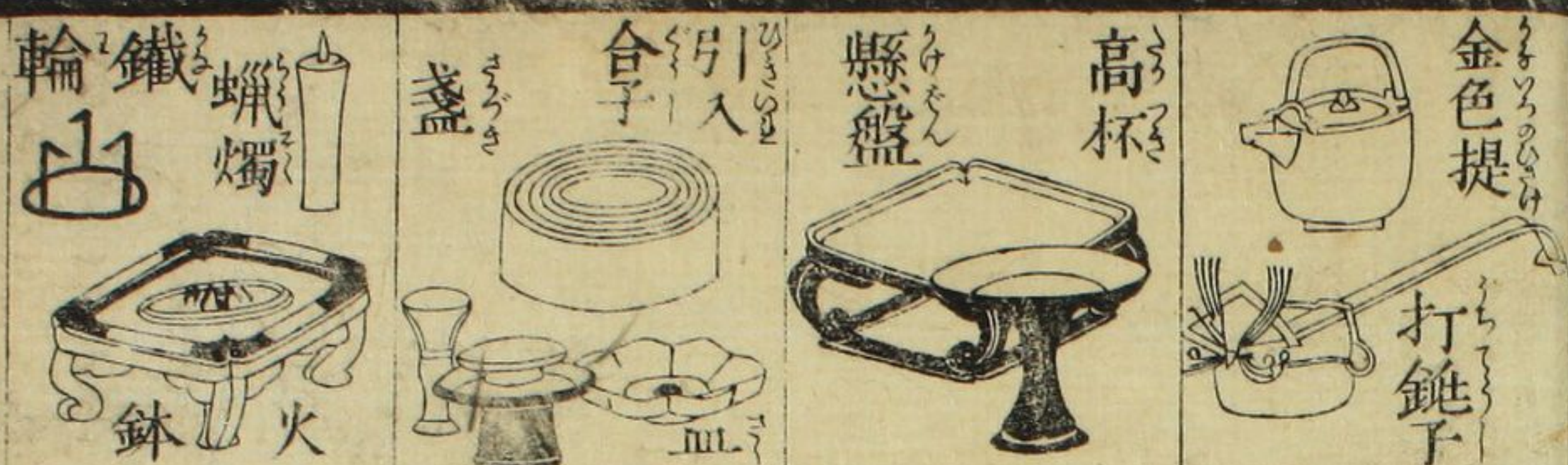
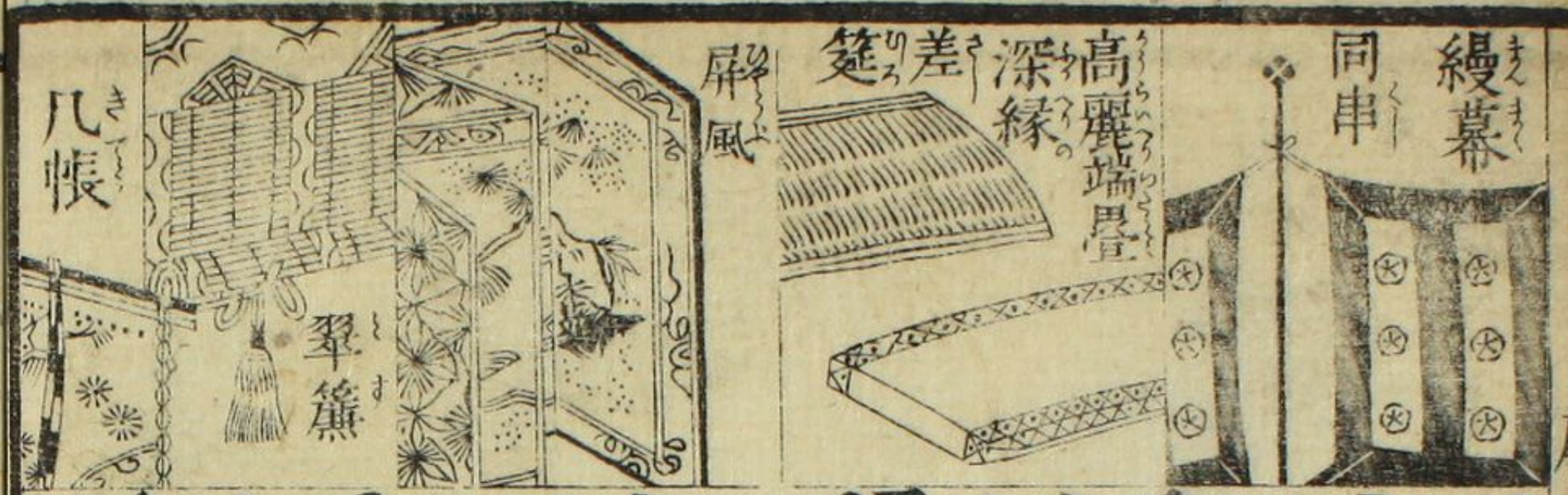
本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江
 本支所監大江 本支所監大江

定明

七二

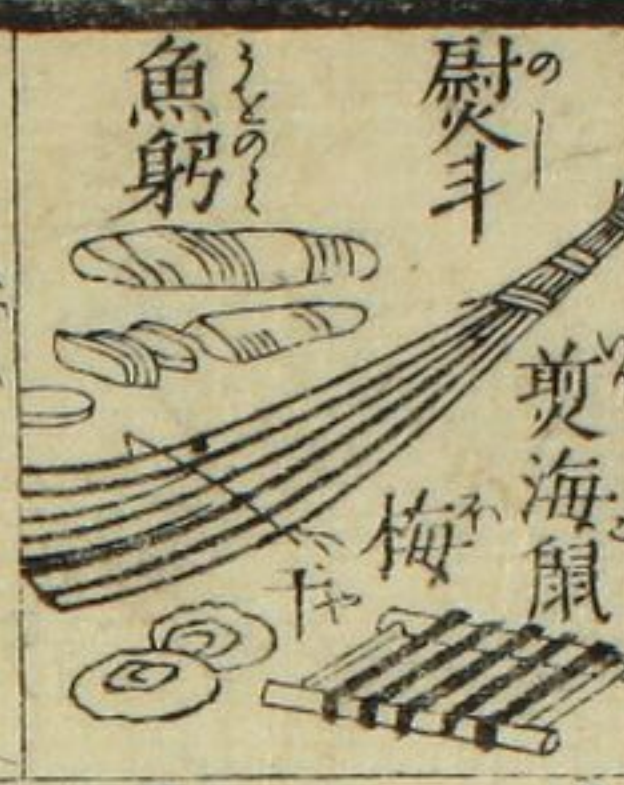
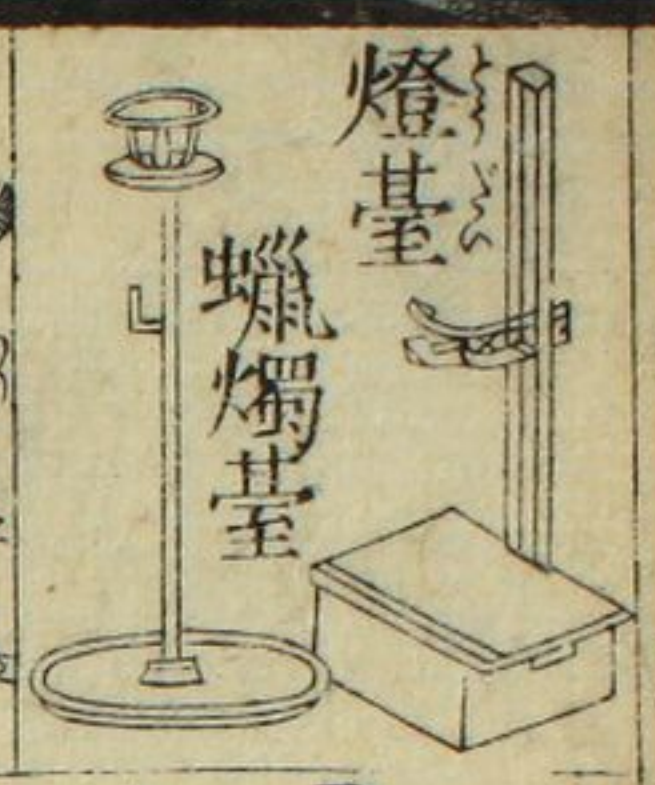
夜言

十一



のあつためう ころしうのあつためう
 之間の勢應道を欲生泰公と云
 謀叛及逆に流罪ある事 率漢賊
 狼藉の悪業を特記す 関山賊
 海賊強寇 源流盡す 横山と云
 奪取の会 賊者上捕ま 仁定初見
 旅人を慕ふる 謀逆討つ 將軍

依は教の方と為家 枝因就向彼就
 場破ゆ 城郭追伐 不積 益之 賊也
 警固要害に因る 手合 欲と 逆致
 作をよ 以 因 教 誘 成 事 事 事 事
 自來 公 氏 志 義 謀 逆 相 出 服 卷 事 事
 手 替 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事



幸甚尚蒙眉目同定是日
 今之珍貴人義も約後
 存命はま在まに
 將軍家出教書教書
 法鏡法旗
 一様者

六月七日
 後教書
 依不願
 法行



此將軍家御教書執事抄初傳
 取奉書を親授也其が例也之類
 不取中法抄及送野をる後出
 賜と同張中法抄珠之玉を福意
 類を守抄同之具以自洗堂之掃摺
 凡膚分捕軍忠老軍松之有也

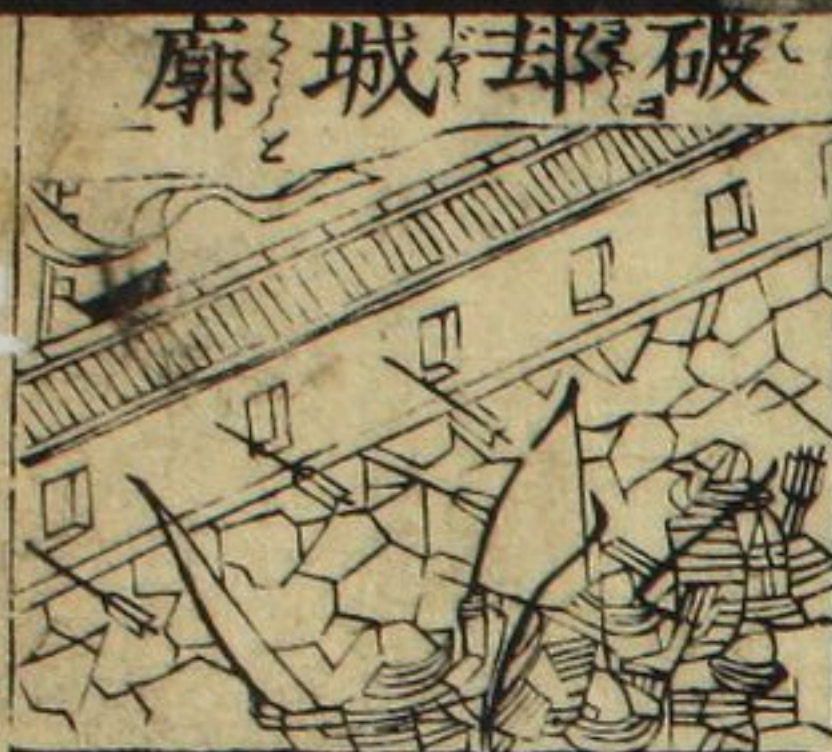
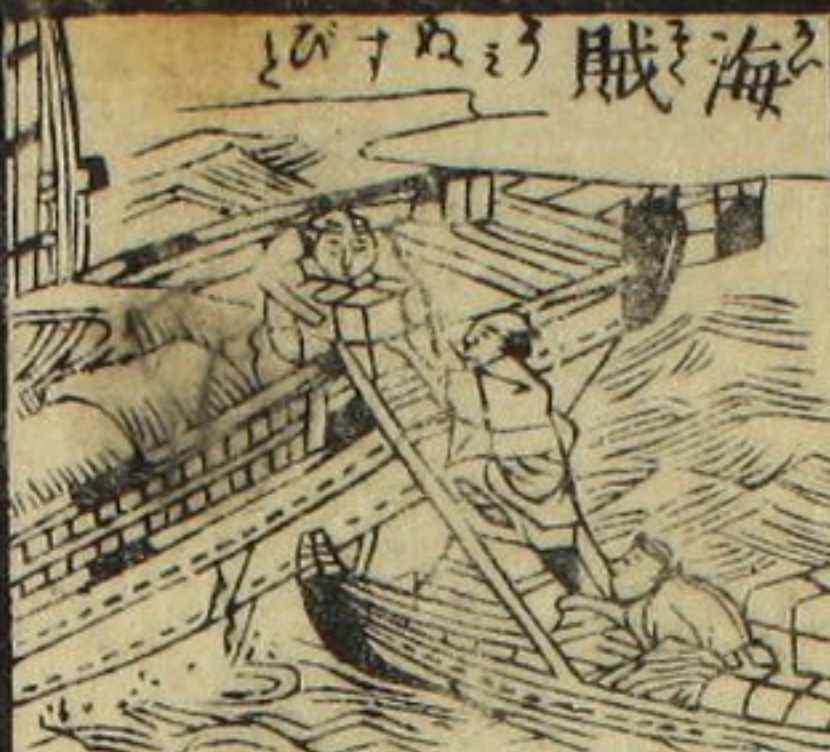
延

七五

只今欲遣使者知唐の歌多信
 系相叶中里の海軍校中抄
 戰場抄を教事抄と名付す也
 編首院室多老親或令る官前
 宣志此抄南ノ將軍別抄等ノ
 冲野等信也其統也信使抄等利

及

ナ



能くはるるにせりつゝふくのこゝろに
 能くはるるにせりつゝふくのこゝろに
 能くはるるにせりつゝふくのこゝろに

黄系後卷唐後小様軍軍終念
 黄系後卷唐後小様軍軍終念
 黄系後卷唐後小様軍軍終念

蓋騰宛は首隠無鉄棒道類服
 蓋騰宛は首隠無鉄棒道類服
 蓋騰宛は首隠無鉄棒道類服

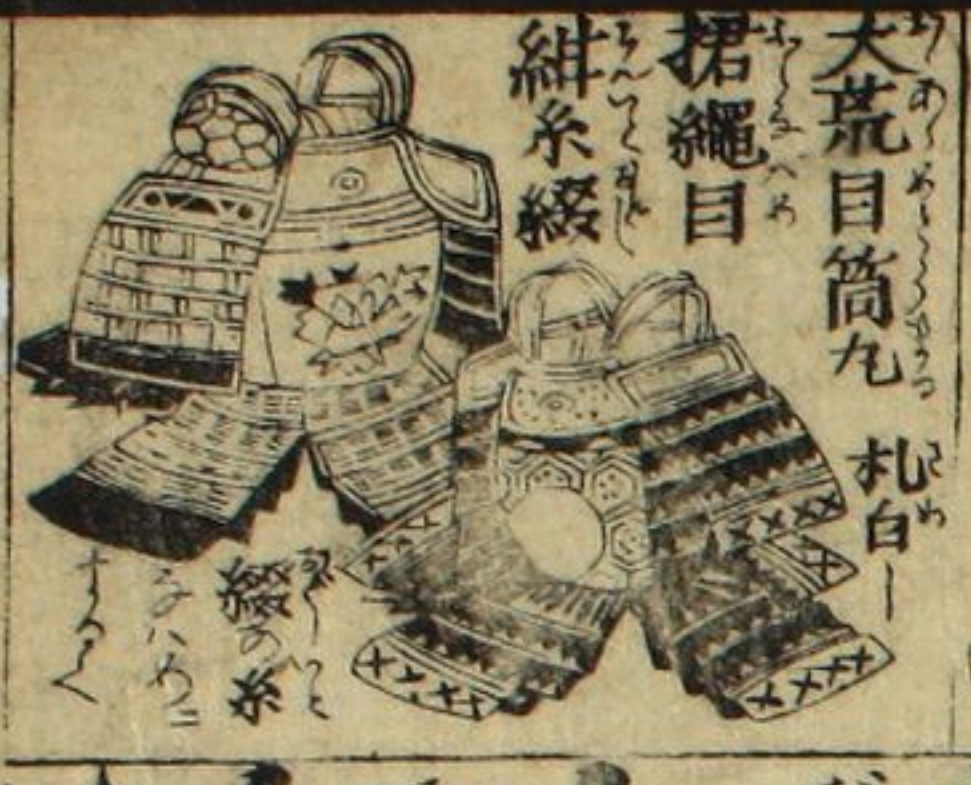
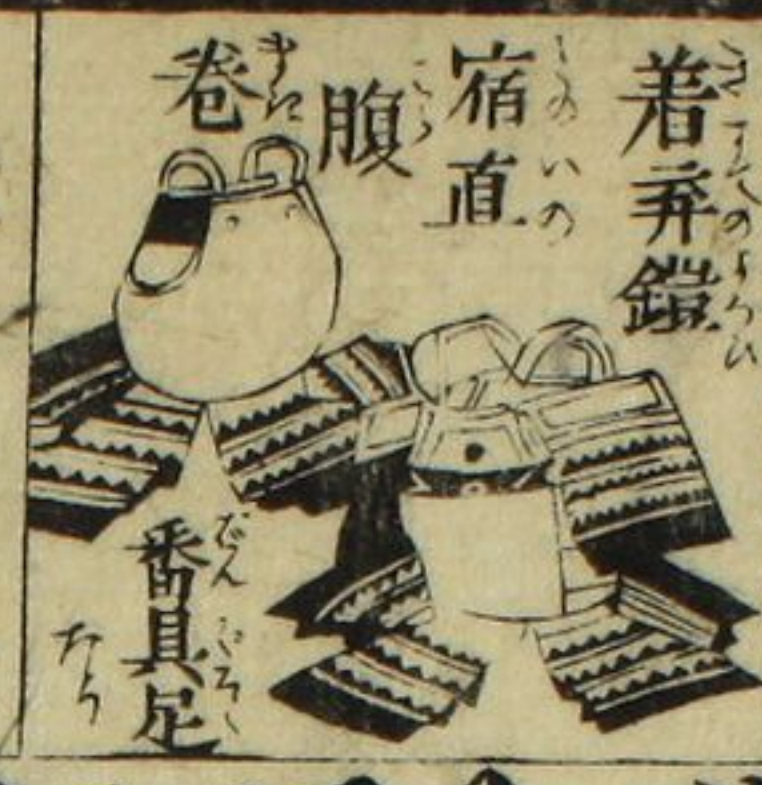
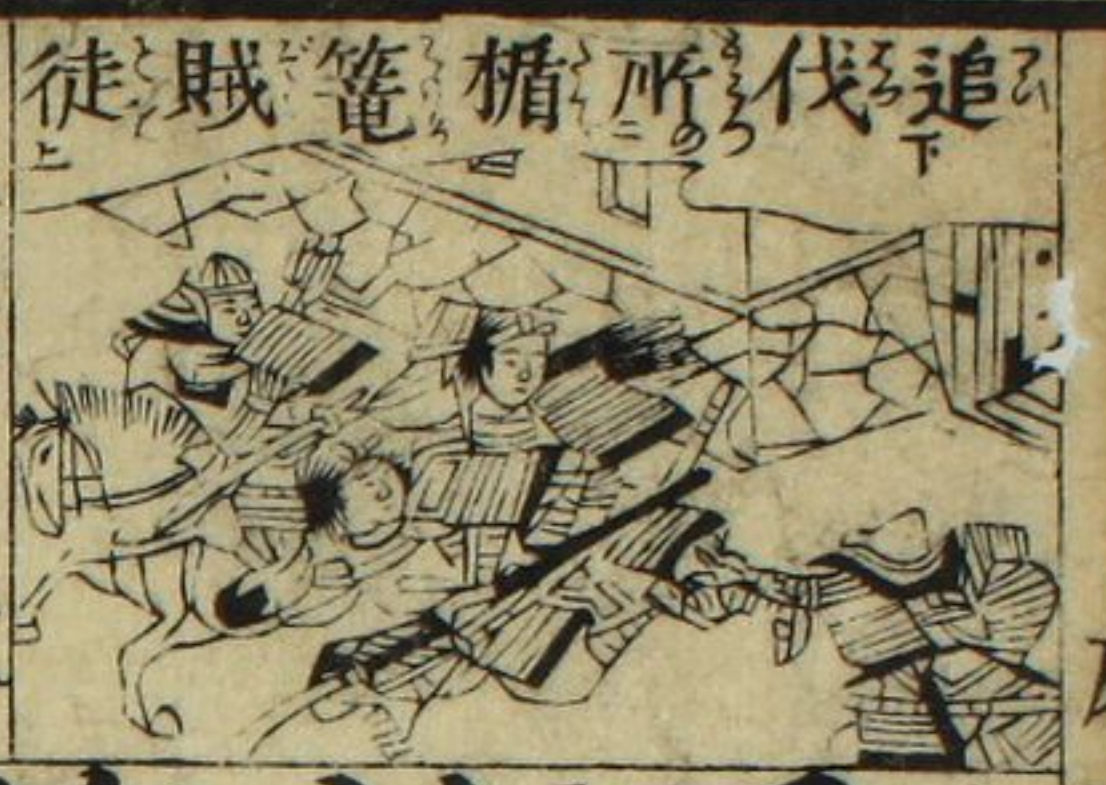
胡藤ふ打伝夫筋切前妻軍志院
 胡藤ふ打伝夫筋切前妻軍志院
 胡藤ふ打伝夫筋切前妻軍志院

雁保筑野鋒矢名相具腰尚弓
 雁保筑野鋒矢名相具腰尚弓
 雁保筑野鋒矢名相具腰尚弓

方志兵庫録身預は取物深録
 方志兵庫録身預は取物深録
 方志兵庫録身預は取物深録

産訓

三



馬を連發草元棋子葉元馬元
 鶴發白月額蓋元駢宮踏未踏お
 副令入智令令復輪螺鞍白橋馬
 凍張鞍料鞍橋令地鏗白磨機大
 取鞍細前子細服葉靴以葉葉鞍履

虎は素子切付水豹熊尻沈降敵元
 繩索為中後まよよの糧日本鞍鞍鞍
 袋乃美野宿料乃以敷法油草香
 雜々心之取乃葉葉元之葉又宮政好
 知葉密令發を捕多武吉葉葉松治
 後結陣結之軍政中捨令結為

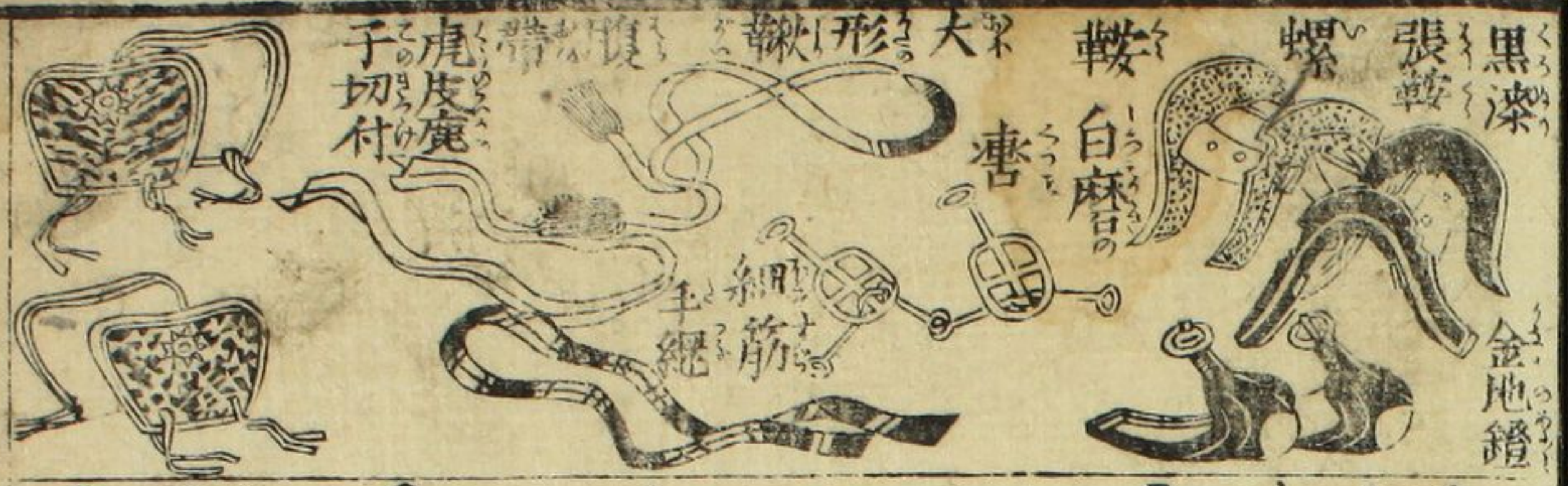
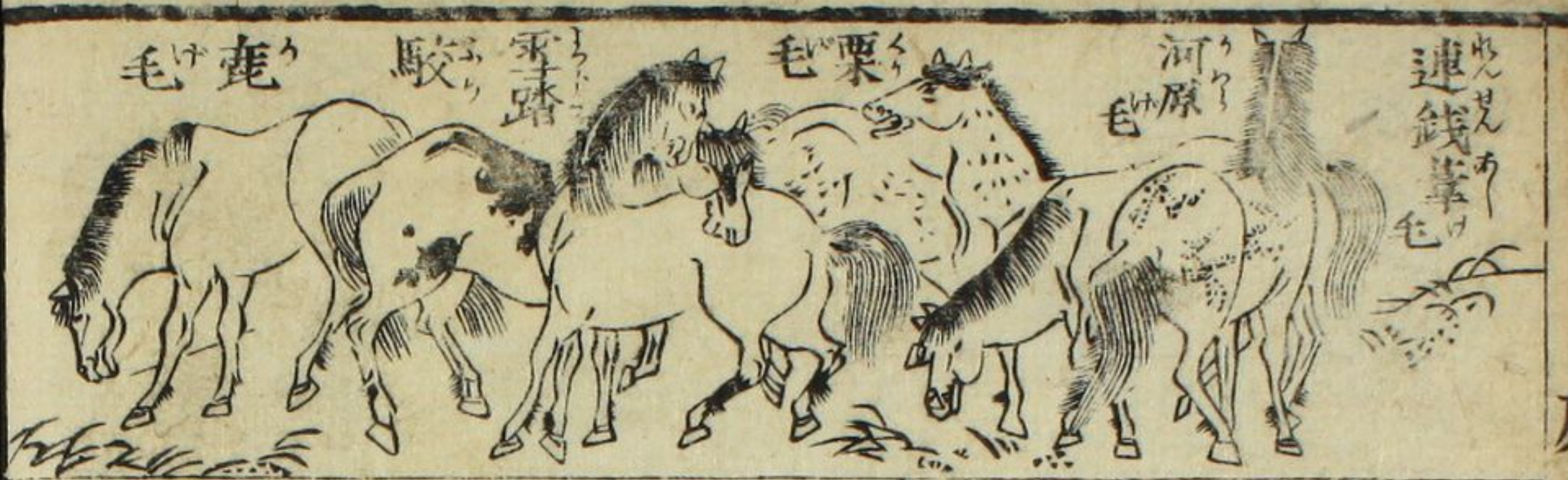
正川

七



粉骨之從者 怯弱備後流地境
 心之取及言為子守者之具言也
 變換言者之志刻大曠式也
 事約涉海毛之阿公之之也
 六月十日 兵部軍丹治
 備上 勅解由次官殿涉報

飛忍中今元忍身其能為信者
 雲霧之激乃使之使事也
 不得不能出持其狀自由也
 沙音同之淺中抑其毒以勝
 有津其能為月流之物北之葉
 主揚其為其極之節不袖其織



のひんこねこねこれらのもろびせのりや
 草草草草草草草草草草草草草草草草
 冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬冬
 後後後後後後後後後後後後後後後後
 小袖同窓若南魚子箱履袋冠表
 衣水旱虫笠袴衣袴帽子虫衣
 只帷子長刀腰刀籠袖袴衣袴

七月一日 左衛門尉在
 進上 官内少輔殿
 薄命拂危之際用急致る罪
 將賤後拾取申入用物事但貞徳



被存智疑忍之機

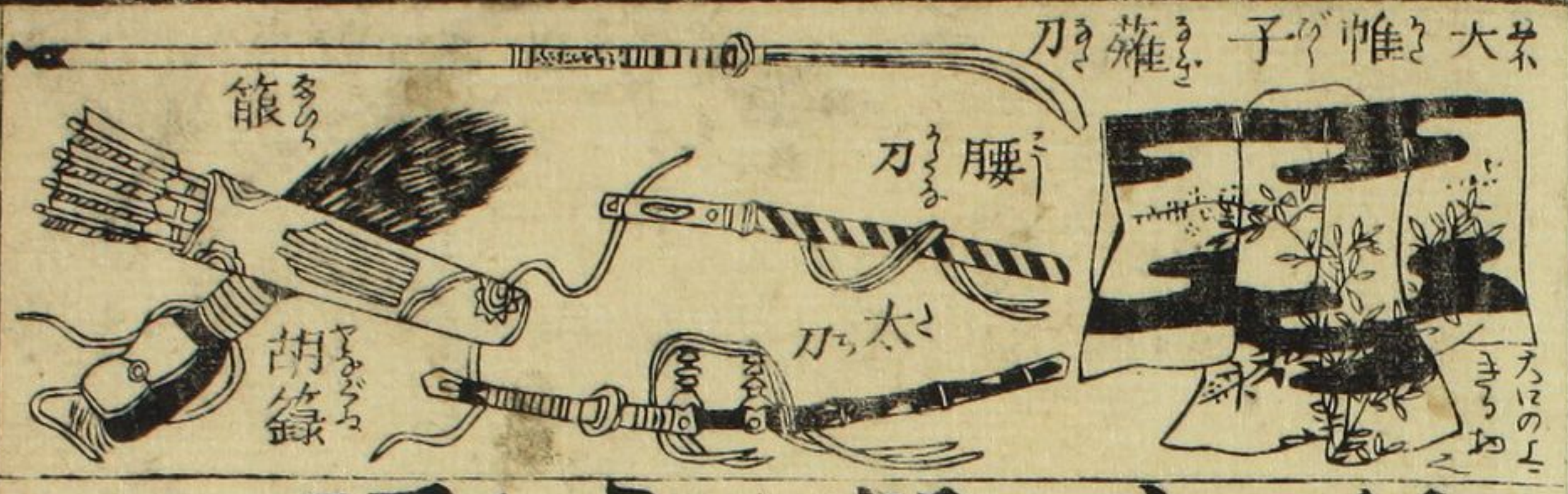
七月日

紀

律上 大教忠敷

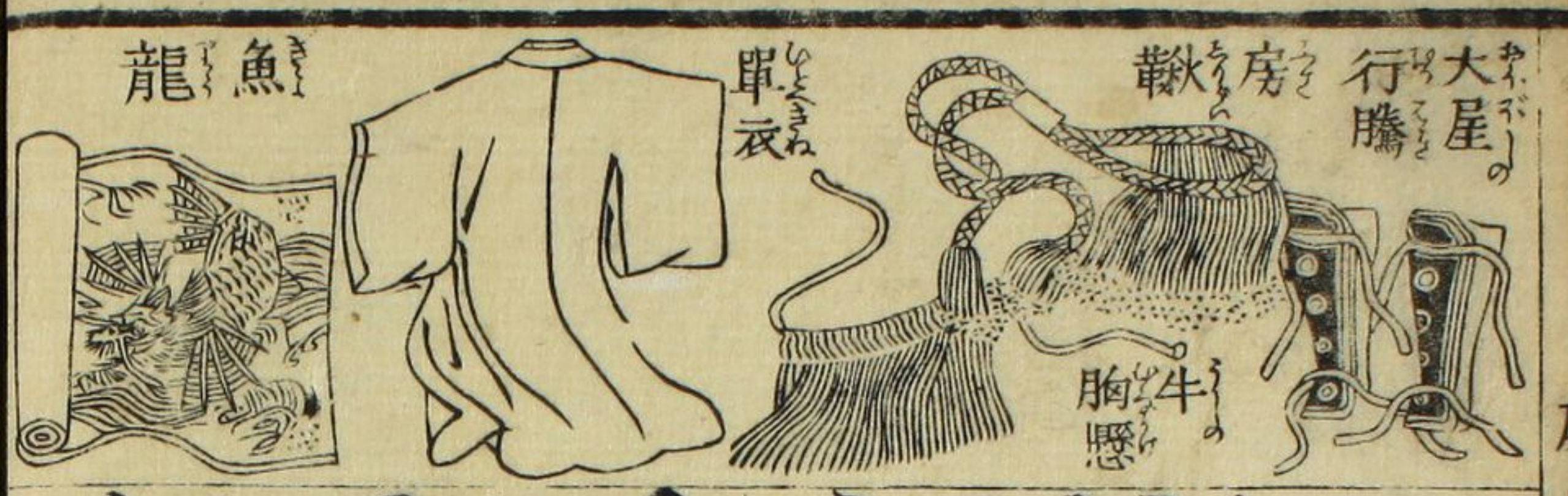
下省以後之智業尚然如之往
 昔君隨龍胸中意業只自然之極
 忍心控活陽靜龍用金書其色
 忍心控活陽靜龍用金書其色

如皇之君臣性樂一政亦非執事
 相痛誠境遠托君款款委辦之憂
 以固而勞而煩後後維名切深委
 持持之系代衣經系系練冬秘書
 後不致如出祠誠及山身神行書



あゝらさうあんどいそむいんじやうぶがらうまうりやまうらうらう
 与者集衣式 毎奉り取巻様
 ひさつめんぢうまふぢうらういんじのいぬらんぎぢやう
 引付廻り奉裁勘判袴分家定
 のおひさのまうちうらういぬらんぎぢやう
 越得ていさ下上履給申由法
 ちよむのまうちうらういぬらんぎぢやう
 不替規式雜勢 流儀下裁敷傷
 例納付傳令式家お違存知仕奉
 時時集衣式常履作功不替
 結古見注例 加見校不審
 事立不為明也衣集注那付
 雜所風情牙志威管員之費
 度作年不乃腐毫後期而
 拜の志之儀之

七月晦日 加賀大塚和氣
 七二

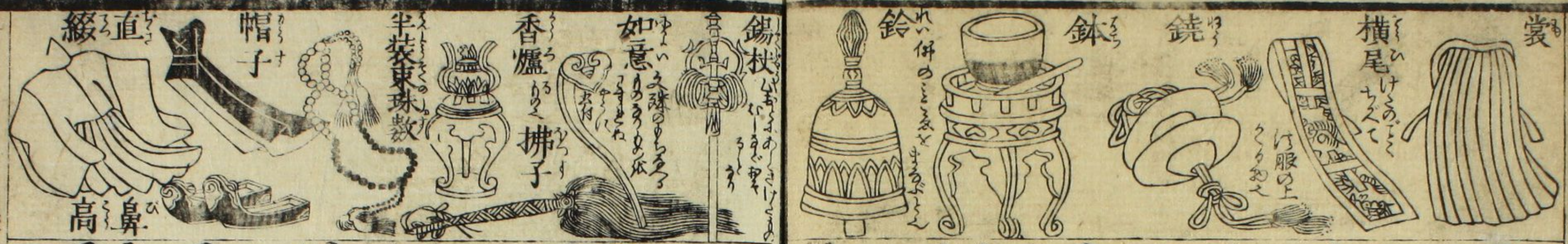


律上民部大補殿

依籍事常事通政略云
 爲之系珠重自來在空
 海島年幾幾何事以爲
 天靜從事人據其所事
 法脫教基出被抗の事
 後法脱教基出被抗の事



滞儀儀改の形記若者
 息後法脱教基出被抗
 法脱教基出被抗の事
 爲之系珠重自來在空
 海島年幾幾何事以爲
 天靜從事人據其所事
 法脱教基出被抗の事



反言

九三

孫實越境お備未申己決分後伏
 お備重書申上於 惣可致意
 沖沙法及上気園園祐等皆切
 亦為終目 正律定道乃務 臣等書
 体日致勅判就回直職 國園書 執
 年書高伏奉事お祈念附及友

交至書信使言下百府就遣背
 教状並下知所今る進座
 弘劫下所状並之向答所陳法
 花寺對變任雄是地等の令
 取捨重書お 組親法評定書見
 取令成敷山直行を飛代下券安

庭訓

七四

草鞋



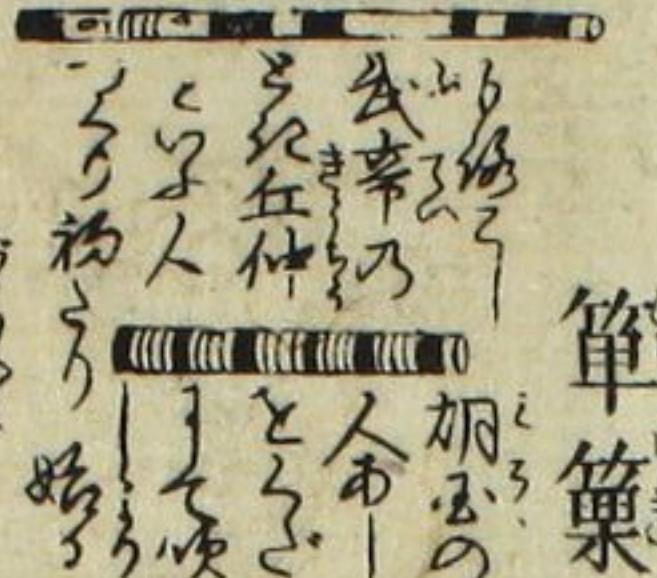
龍虎唐画



梅竹唐画



横笛



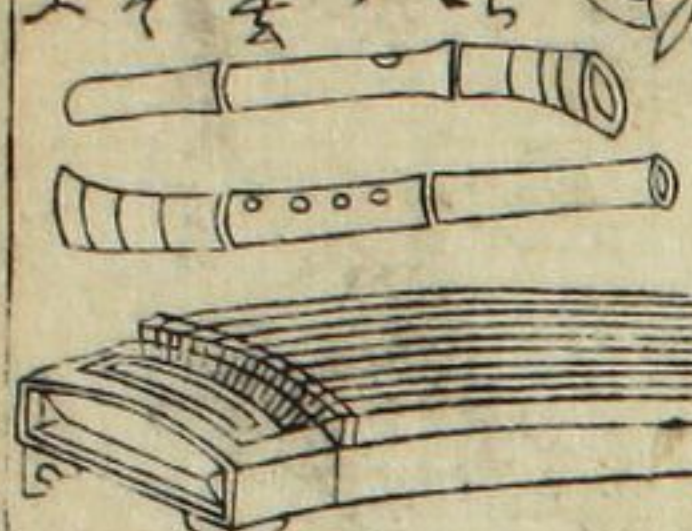
笙



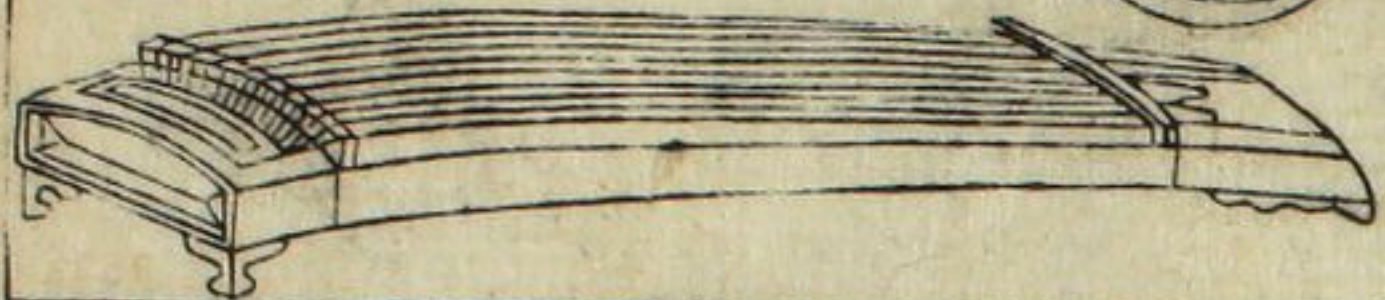
琵琶



尺八



唐の琴



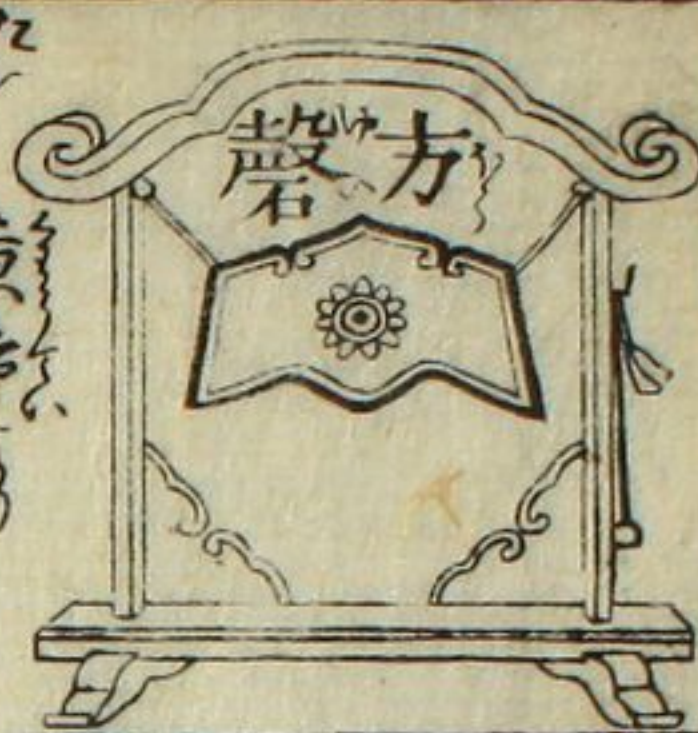
和言

どの終んきとらぬびさうのんけんけのまよとら
 法年記放券奴輝雜人券惣志法
 高皇代元謀定凡的管領事人
 有等奉行人神判事身仍心寄
 方与察為泰仁成書下國之
 天下奉書母言爾使仰受
 御行陳以出對尚不執事手受

領奉行人金行河谷振露沙法執探
 取之資見江加才知也侍取之律教教
 善山海東賊法宿宿海取火及傷
 打擲疎烟勾一踏以信信國律意
 峰求管領執事身以人檢取不
 司代懸所狀於在等一與小令會

和言

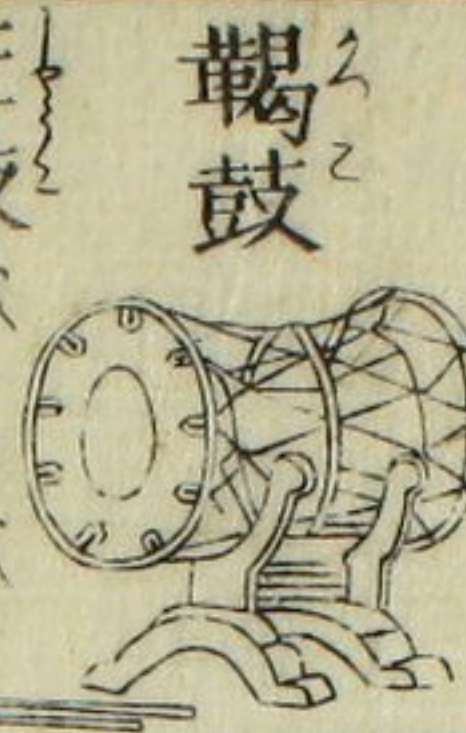
七五



大磬 黃帝



鞀鼓



鞀鼓

鉦鼓 鼓之白鼓

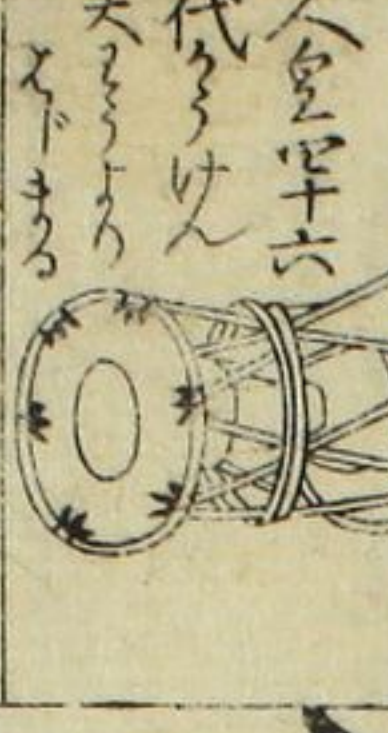


調子 撥子

二鼓



摺鼓



人皇宇六 代々々々 天々々々



孫康



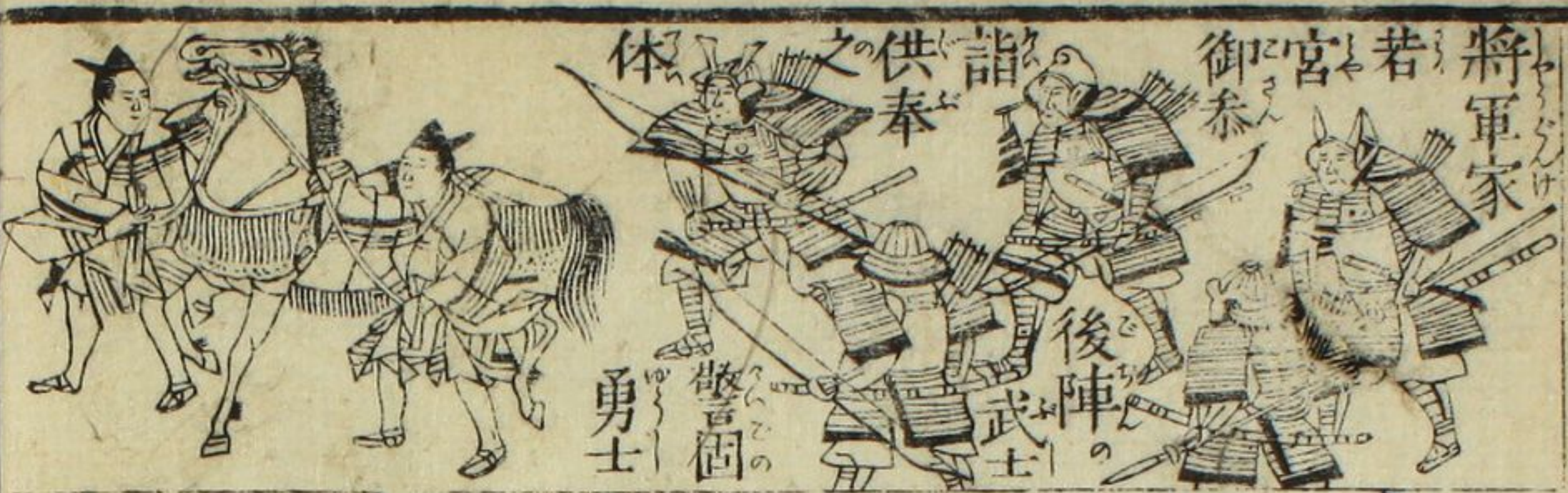
車角



螢雪鑽仰之功

其人是非不待行也決也社所信也
 就本不舉身是也先也越所處也
 志依探顯管領与棄集統統也奏
 車於中家務其貴方以規式
 不勝斗也其自極具難當命上
 御上落雨心之更及起可也申伏

其人是非不待行也決也社所信也
 就本不舉身是也先也越所處也
 志依探顯管領与棄集統統也奏
 車於中家務其貴方以規式
 不勝斗也其自極具難當命上
 御上落雨心之更及起可也申伏



也恐惶謹之

八月七日

教位長首郎

侍上 大極殿

右以領海札は紙傳付に同則中
 御事奉は條失中と手押將軍
 家着美中奉治事付を日記借用



或方作後日態を言也王行起
 起之國東鶴雲情美中奉治先
 路決志入奉車後生公卿一騎馬
 殿上人前駐少南未美敷綺羅輝
 牙陳敷敷花持衣水早供也
 白雲垂布衣景鏡衣衣撥當四以梳



駟前
 北面
 御車
 左右帶刀
 供奉人
 瑞令銀元印中圓難念令中圓
 爲抄元更之就中後深成空勢
 勇吉之定中宵忍之鑲空空馬鞍
 弓服省重代毫空用新烟尖
 乘自外最後隨空也上下各



御迎伶
 人調樂
 妓翻羅
 綾之
 陣頭
 袂
 袂頭
 袂空神主
 捧幣帛大床
 相無らも妻子虐長中速候
 去酒樂好舞後後杖杖深空
 舞人志お舞舞侍舞以に陣杖空上
 袂空神主捧幣帛空人舞舞
 袂空神主捧幣帛空人舞舞
 袂空神主捧幣帛空人舞舞
 袂空神主捧幣帛空人舞舞

別當社僧解經紐

於王鹿



巫八女
曳裾帶

舞遊
於透廊



及言

卅

くんといまひわそびとらうけ志くしやうのうぐりよこか
 後事并遊遊廊職掌神楽男
 合宿授子花候拜敷加之陰肉清境
 尚望神楽初会返極初相探
 末賽礼真初若若候神感真真敷
 主終後以揚事身目及及道
 先等唯作も其言とととととと

八月十二日 左清門尉

傳上 大内記敷

相存度後私刻念悔其業
 度其業以之真意改悔社業
 祈安の勢の佛の天は之業の相後

三

廿七

金色等身如来



座像菩薩



脇侍二天



細金彩色繪像



薄濃墨画



庭訓

物用之種類也。擬助成之。執也。

臨法。釋嘆。及。智。白。行。の。名。時。一。變。

進上。侍者。沙。中。

九月十日

沙。中。

進上。侍者。沙。中。

芳。札。多。令。投。身。事。成。平。有。出。結。法。

自。新。新。教。秋。冬。悔。意。之。余。凡。情。言。

業。障。先。一。行。謝。意。唱。守。事。り。各。

之。意。陳。主。却。自。興。一。信。迹。也。自。根。

事。也。是。乃。進。相。補。教。多。佛。像。經。卷。

釋。嘆。多。才。有。子。細。堂。倍。供。告。各。

法。花。律。也。お。安。大。法。后。儀。或。有。

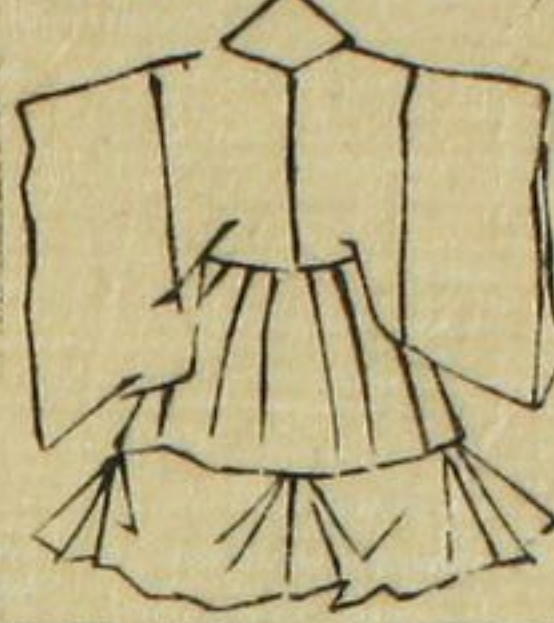
庭訓

四十一

攝待



法眼



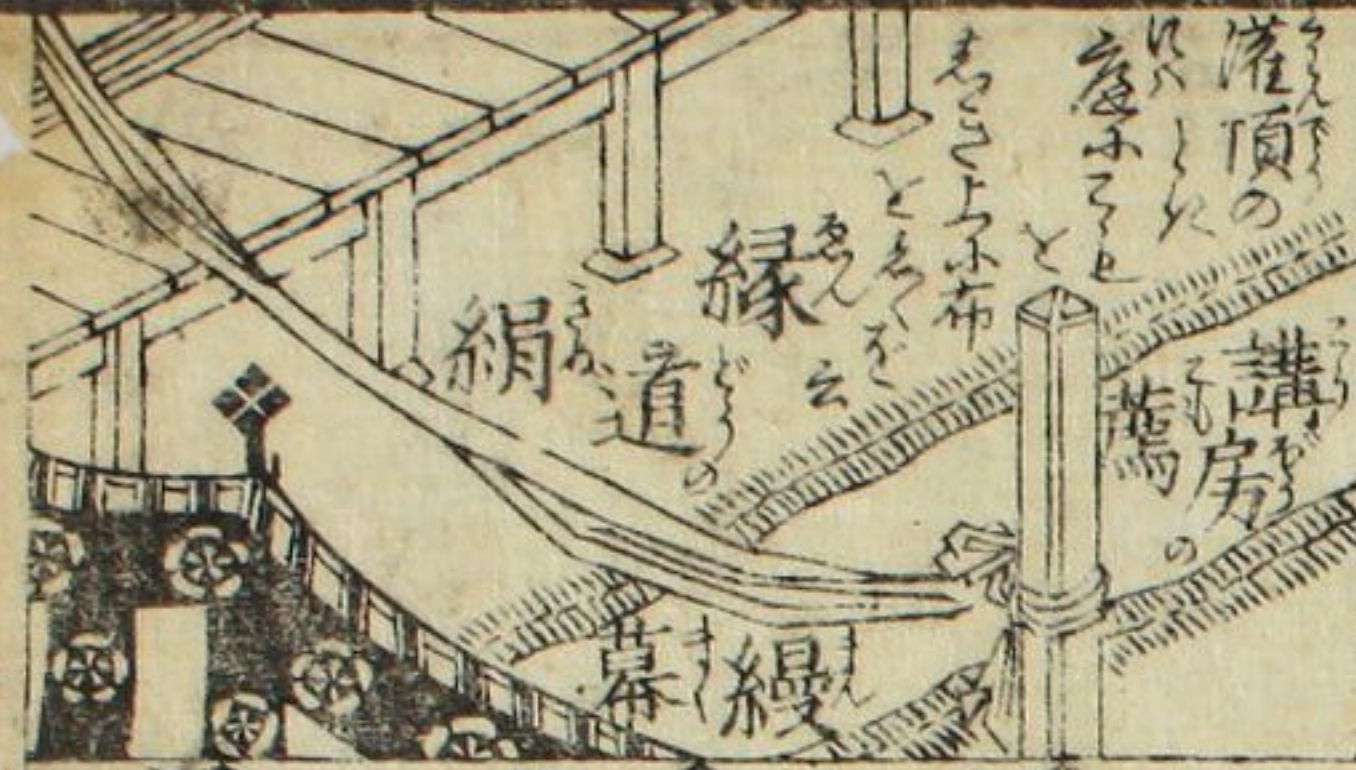
高座



散花



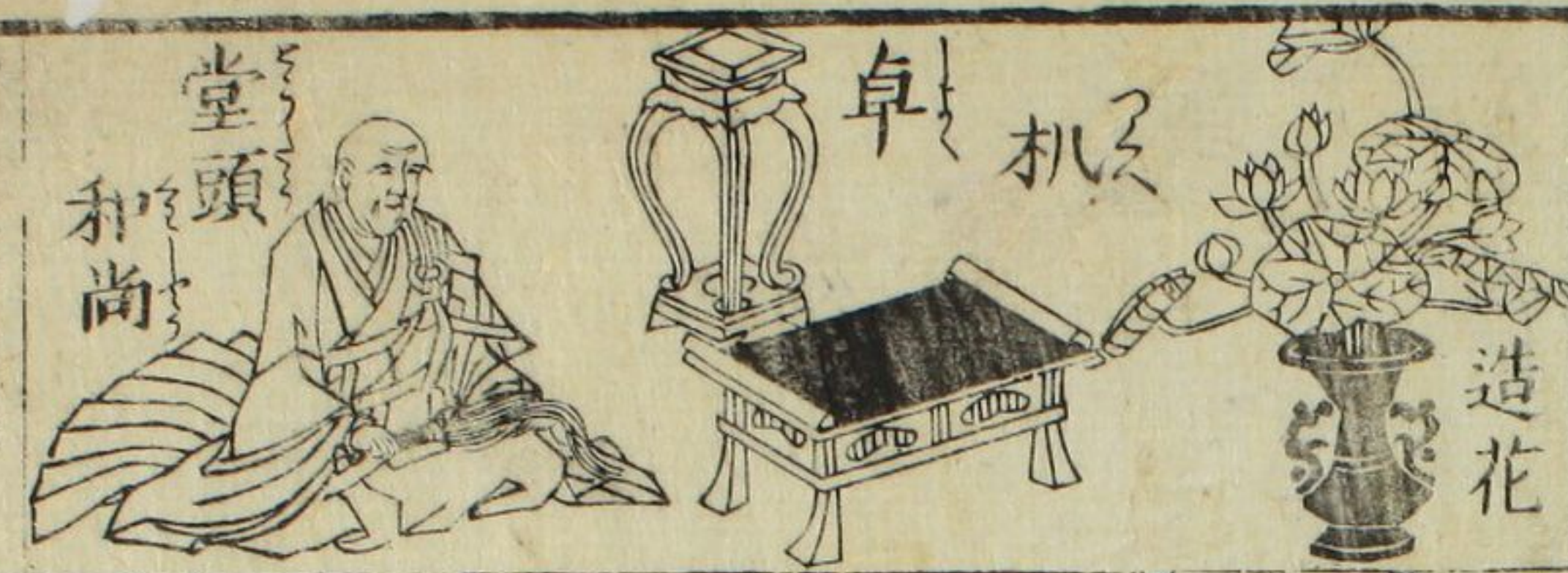
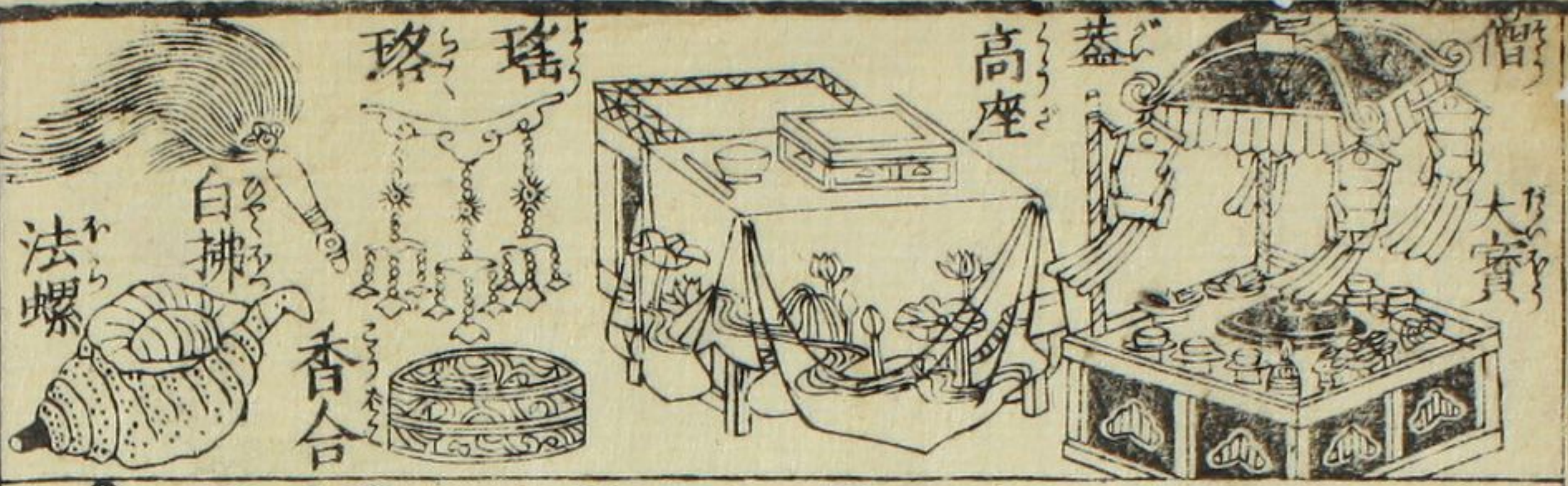
伶人



皮言

は服堂高座の行道末の聖乃之
 名儒の致趣を以て講師俾ゆは
 筆著僅義探歌音韻散花統有錫
 杖對揚究於際出及如清い歌人舞
 童之儀式詳大切法は指南以爲
 先之行用之新編乃経傳房ノ産

緩幕大なる有傳藝接接也之
 香煙香箱回巻の拂は螺焼香
 生花早札陣河経頭をたの儀
 音角常々校重耳の演習也
 流多奈実身月影其の湯之言は徳
 春酒初賀来を謝作也之儀之



有職僧綱
心見清規孝之

九月廿二日

平入道敷御報

侍者

入院奉命退院由書多令相着
 のあのまんどろびてうーまうまうそのつてふゆりふめめん人の
 之間を直程信のま決其為之經
 且為親經の以合齋同結急
 おはる御多禪伴僧諸尊經

仁皇幼老率其前仁美令
 知在香湯の冬給符如重
 尚本寺南堂再筆五都寺監
 お別も活も曲も在威初官都園

東堂	西堂	知事	都寺	監寺	副寺	浴主	典座	直歲	都管	都聞	修造	堂主	淨頭
寺の東に在りて僧徒の住居なり	寺の西に在りて僧徒の住居なり	寺の事務を掌る者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり

頭首	方丈	前堂	後堂	首座	書記	藏主	維那	那
寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり	寺の僧徒を統べし者なり



隆平寺堂主清以首方丈堂主
 堂主寺主院主維那管燒香
 侍養心儀湯茶齋粥侍養心儀
 唱高僧塔頭坊主寺主僧者
 直堂沙弥唱食以老齋以副主堂
 泰併監寺司庫主及箱主入老兒

那部宗守本守一守以經後連
 僧志長老筆曲度沙弥齋戒
 今法師書在寺主寺抄授執の
 別尚老更寺以座主以是執由之進
 阿闍梨法橋律師僧初法中僧正
 正員以勅進別尚得業内侍奉



堂司

庫司

炭頭

兄弟部

出納

鉢

振

檢校

執行

別當

長吏

學頭

座主

執當

先



法橋

律師

僧都

法印

僧正

堂司
寺の出入り
の事務を司る

庫司
寺の金物
の出入りを司る

炭頭
寺の炭火の
管理を司る

兄弟部
寺の兄弟
の事務を司る

出納
寺の金物の
出入りを司る

鉢
寺の鉢の
管理を司る

振
寺の振の
管理を司る

檢校
寺の檢校の
管理を司る

執行
寺の執行の
管理を司る

別當
寺の別當の
管理を司る

長吏
寺の長吏の
管理を司る

學頭
寺の學頭の
管理を司る

座主
寺の座主の
管理を司る

執當
寺の執當の
管理を司る

先
寺の先の
管理を司る

法橋
寺の法橋の
管理を司る

律師
寺の律師の
管理を司る

僧都
寺の僧都の
管理を司る

法印
寺の法印の
管理を司る

僧正
寺の僧正の
管理を司る

定川

進上 衣鉢侍者 禪師 出茶

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

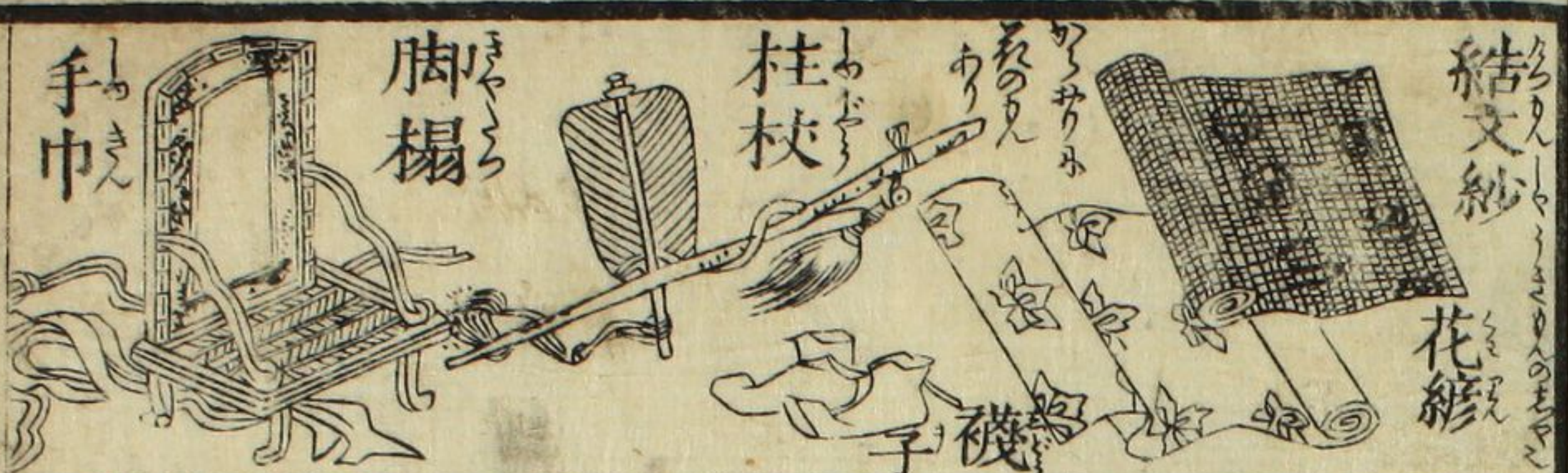
沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓 沓

大勸進	中堂造主	得業	人主事	達預	あるは不御	承仕	公承	官司	法職	僧綱	法職	暹齋	外僧堂	倍堂	公連	從僧	宿坊	馳使	少いもの	掛塔僧	他修字	つては	きるは
-----	------	----	-----	----	-------	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	------	-----	-----	-----	-----



此の物焼燭竹筒曲線し杖茶器
 木頭首下二枚板足石ん水鐵温
 精糖の濃茶年々供養馬賜巻
 筆は養の糖羊養饅饅饅頭索
 巧基子麵茶餅油餅菓子と抽榭
 棋子樽鉄瓶漢加子木可法阿茶器

伏光曲賣餅煨餅淡米與米索餅搗
 赤の粉料と菊の山椒粥と二相
 養茶と建茶目胡茶養鏡州
 茶碗茶本椀茶茶茶茶茶茶
 養茶茶桶茶巾茶茶茶茶茶
 種子桶茶巾茶茶茶茶茶茶



其後納皇女長女奈宿宮行姦
 乃部和津布陸野村乃深哉平其
 昔塩巻浦葉松身帯身在素
 此種可之齋之後葉子生葉
 掃葉半掃松掃平葉花葉枝
 惟美園鳥子後多子百合葉愛後

追懐宿向の約別整事法毎に付
 豆腐巻辛辣長書根葉身葉顔
 有筆巻花菊室葉受け巻葉巻
 布葉巻葉深生身出布鳥頭布掃
 荷葉子葉花物花子葉葉胡丸



子隨... 德服... 醫服... 料... 野... 不...

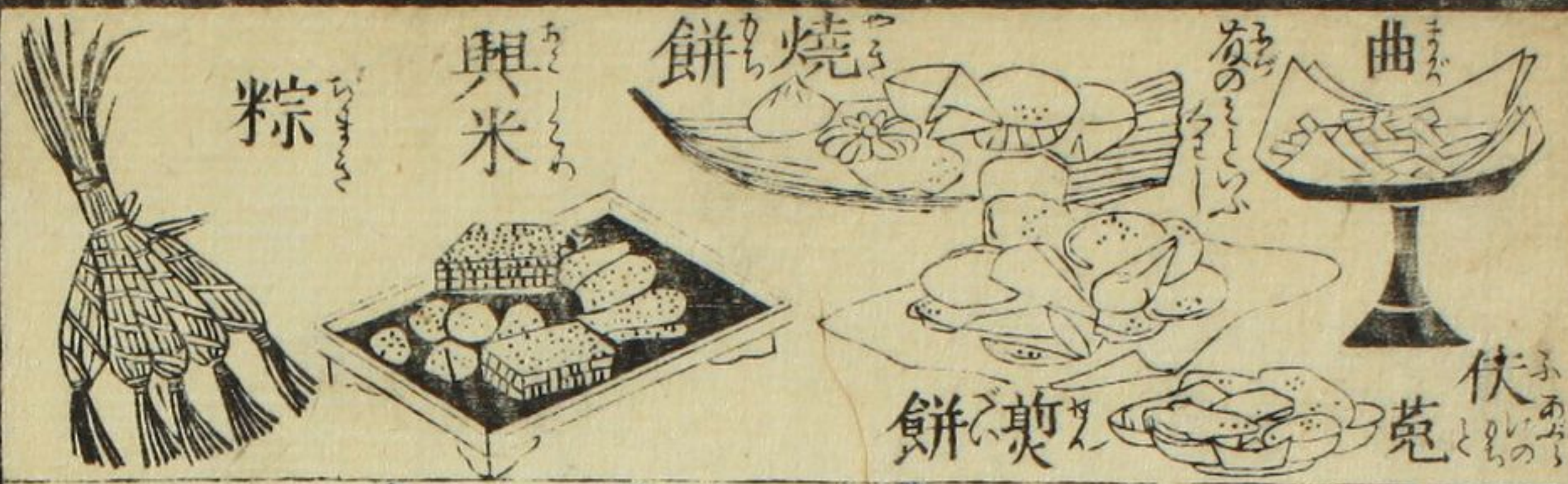
十月日

某

此のあ... 月... 更... 省... 氣... 有...

庭別

五七

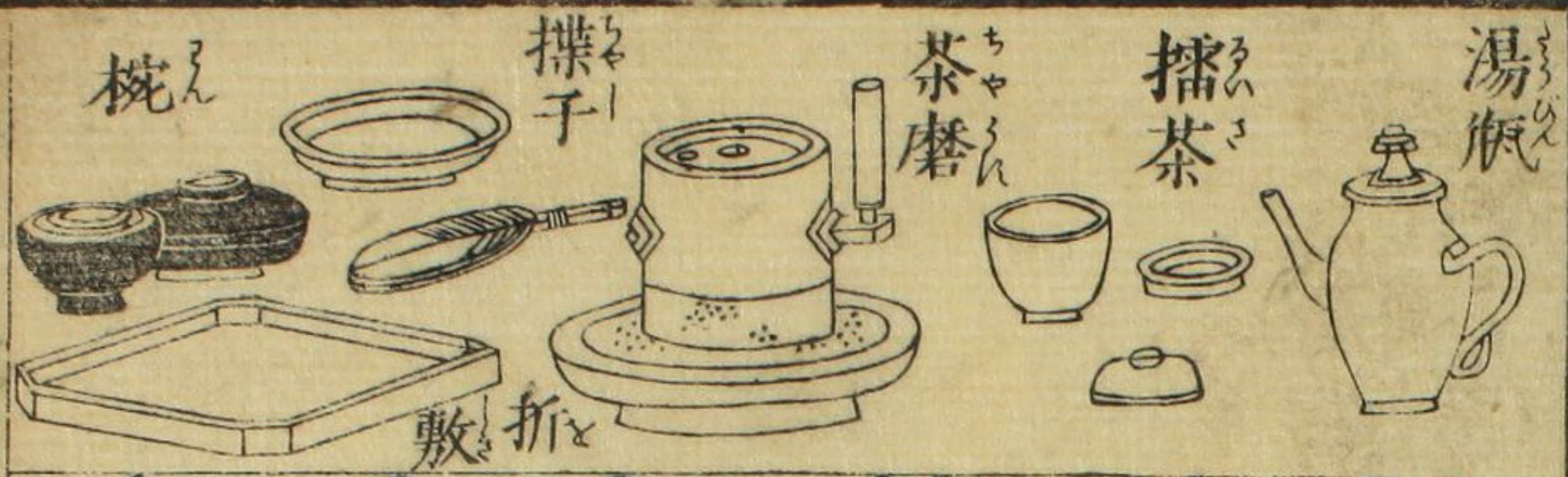


氣中風上奪氣是病也
 癱行腫物積痛喉病痰涎水
 見知此癰疽瘰癧傷風虛勞
 本主受勞同接後合藥深養福
 藥白但字有靈藥藏金利欲服
 紫菜尤中平藥好物治食食長高

十一月十一日
 奏某
 記在藥書卷之三
 後海那西拜之
 僅上全針頭殿
 行尚道心醫者有奇也

庭訓

五十



勅令老純法所...
 長遠...
 歎身...
 冬...
 清...

野...
 参...
 純...
 幸...
 湯...
 可...

雪林菜



葡萄



牛房



織羅荷



款冬花



落

薺

皮

十一月日

進上 富商少補殿

儀部某

御仁因 後鳥免押移をさき面
将 同殿を御目 眼を侍る上落
之 札不取申者 後条 云々 契云々 甲
装 備を云 陸 舟 操 儀 推 進 出 気

大 爲 強 國 去 者 操 務 振 去 給 云
檢 察 官 何 以 次 爲 目 社 及 儀 云 云 他
以 存 在 云 同 任 應 官 人 亦 所 對 也
取 寄 書 取 寄 書 後 條 後 條 後 條 後 條
奉 寄 書 取 寄 書 後 條 後 條 後 條 後 條
取 寄 書 取 寄 書 後 條 後 條 後 條 後 條
取 寄 書 取 寄 書 後 條 後 條 後 條 後 條

薊



茗荷



蕪



蕪荷



胡瓜



萱

豌豆



此の書はけだまのりてさうりありのまきまきけめんあつとせんト
臣細事奉る儀也何様事面福等奉
旨事仰也想々様云

十二月三日

隼人伏

望 越前守殿

少清公御殿
珠光公御殿
珠光公御殿
珠光公御殿
珠光公御殿

依道毎言候由御光法寺御深
行御言上御事御深
長遠存否御事御深
立事御事御深
法後御事御深
御事御深

枝椎

菱

田鳥

子

覆盆子

子



百合草



用教失却令動令神幸煩如之
 諸社神格之其幣亦社令幸之
 法之運之佛事守先例意博之
 惣身之其後惣身之納法利潤矣
 左中右惣身之納法利潤矣
 多中右惣身之納法利潤矣

陸奥郡紙西保和後惣身博之
 十二月二日
 越前守儀部
 進上 隼人 佐敷 湯返車

文化八歳 辛未五月吉辰
 嘉永七歳 甲寅五月再刻

只野村分

日本橋通二丁目

東都 書林

山城屋佐兵衛
 須原屋茂兵衛板

